

令和 7 年度（令和 6 年度対象）

生駒市教育委員会活動点検評価報告書

令和 7 年 8 月

生駒市教育委員会

生駒市教育委員会活動点検評価報告書の作成にあたって

生駒市教育委員会では、市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱である「生駒市教育大綱」で示された基本方針に基づく具体的な事業を掲げた教育大綱アクションプランを毎年度策定しています。教育大綱アクションプランは、社会情勢の変化や点検・評価の結果を踏まえ、毎年度見直しを行っています。

令和５年度までは、第２次生駒市教育大綱を基にしたアクションプランに基づき事業を進めてきました。しかし、第２次生駒市教育大綱の策定から４年が経過したことから、社会情勢の変化や新たな教育課題に対応するため、令和６年度に第３次生駒市教育大綱を新たに策定しました。第３次生駒市教育大綱は、教職員等によるワークショップを１８回行ったほか、市内小学校５，６年生と中学生等へのアンケートも実施し、「みんなで作り上げた教育大綱」となっています。

令和６年度は、第３次生駒市教育大綱を基に、『自分らしく「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう』の基本理念の実現に向けて、教育大綱アクションプランを策定し、施策や事業に取り組んでまいりました。

この生駒市教育委員会活動点検評価報告書では、新しい教育大綱の理念の実現に向けて、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づく生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、教育大綱アクションプランに掲げられた施策及び事業を中心に、令和６年度の実績の点検・評価を行いましたので、同法第２６条の規定により報告します。

令和７年８月１９日

生駒市教育委員会

教育長 原 井 葉 子

目 次

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価

について	1
1 報告書の位置付け	1
2 国等の動向	1
3 点検評価の概要	2
4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見	6
教育委員会の活動状況	7
教育大綱に基づく施策・事業	10
基本方針1 主体的に楽しく学ぶ人であるために	10
1 あらゆる世代の主体的な学びの推進	10
2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成	19
基本方針2 学びを通してつながり合える地域であるために	25
1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり ..	25
2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり ...	36
基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために	43
1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備	43
2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備	50
3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備	58
点検及び評価に関する意見	66

生駒市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況に関する点検・評価について

1 報告書の位置付け

この報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「法」という。）第26条第1項の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表するものです。

2 国等の動向

国では、改正法が平成27年4月に施行され、教育委員会制度が大きく変わりました。

また、学習指導要領が平成28年度末に改訂され、幼稚園は平成30年度、小学校は令和2年度、中学校は令和3年度から新たな学習指導要領に基づく教育課程や指導が実施され、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための取組や、小学校高学年での「外国語科」の導入など、教育を取り巻く環境が大きく変わりました。

あわせて、令和2年度には新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、GIGAスクール構想が前倒しされ、情報端末が児童生徒1人に1台配備されました。また、中央教育審議会では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とした「令和の日本型学校教育」の実現が求められています。

生駒市では、平成28年6月に「生駒市教育大綱」を策定し、基本理念である「『遊ぶ』『学ぼう』『生きよう』みんなでいこまを楽しもう」の実現に向けた具体的な取組を「アクションプラン」として掲げ、毎年度PDCAサイクルに基づく効果的な進行管理を行うことにより、より実効的な施策・事業を推進しています。

なお、本大綱は推進期間が4年間とされていたことから、令和2年6月に第2次生駒市教育大綱を策定し、具体的な取組を進めてきました。

令和6年度には、策定から4年が経過した第2次生駒市教育大綱を社会情勢の変化やアクションプランにおける実績や成果等を踏まえて、新しく第3次生駒市

教育大綱を令和 6 年 6 月に策定しました。

【生駒市教育大綱策定の経緯】

平成 28 年 6 月 生駒市教育大綱 策定

令和 2 年 6 月 第 2 次生駒市教育大綱 策定

令和 6 年 6 月 第 3 次生駒市教育大綱 策定

3 点検評価の概要

(1) 点検評価の対象

教育委員会が行っている活動を大きく下記の 2 つに分類し、それらを構成する各施策・事業について、点検評価を行います。

①教育委員会の活動状況

②第 3 次生駒市教育大綱に基づく施策・事業

第 3 次生駒市教育大綱体系図

基本理念 自分らしく「遊ぼう」「学ぼう」「生きよう」みんなでいこまを楽しもう

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

基本方針 2 学びを通してつながり合える地域であるために

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり

基本方針 3 多様な学びを支える環境づくりのために

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備

2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備

3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備

(2) 点検評価の方法

各事業の取組の実績を踏まえ、達成状況を4段階の評価基準をもって評価します。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得た。
- A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ、目標を達成した。
- B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない。
- C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない。

評価にあたっては、アクションプラン掲載事業については目標に対する達成度を評価するとともに、取組内容や当該事業等の実施によってどのような効果が得られたのかを明確にして評価を行います。

未達成の事業や取組が十分でない事業がある場合は、その要因と理由を明確にし、次年度以降の活動や事業等の実施に活かします。

(3) 評価の総括

教育委員会の活動状況

事業数7 S : 0 A : 7 B : 0 C : 0

事業名	評価
教育委員会会議の開催	A
学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	A
その他市教育委員会主催事業等への参加	A
教育委員としての資質・能力の向上	A
各種教育機関との連携	A
総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	A
教育大綱アクションプランの策定	A

教育大綱に基づく施策・事業

総事業数 69 S : 7 A : 55 B : 7 C : 0

基本方針1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

事業数 22 S : 3 A : 18 B : 1 C : 0

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進	評価
小学校高学年教科担任制推進事業	A
学校図書館の充実による読書活動推進	A
生駒こどもチャレンジ補助事業	A
部活動支援事業	A
キャリア教育推進事業	S
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援	S
教育・保育の質の向上	B
保幼小接続推進事業	A
「サイエンス探究教室」の実施	A
ビジネス支援事業	A
小学校1年生30人程度学級の実施	A
2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成	評価
自殺対策推進事業	A
デジタルシティズンシップ教育の推進	A
いじめ防止等の施策推進	A
特別支援教育の充実	A
不登校支援推進	A
校内サポートルーム事業	S
自校式通級指導教室推進事業	A
スクールカウンセラー配置の拡充	A
スクールソーシャルワーカー配置の拡充	A
多様性を認め合う場の提供	A
図書館読書バリアフリー事業	A

基本方針2 学びを通してつながり合える地域であるために

事業数 18 S : 0 A : 18 B : 0 C : 0

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり	評価
いこま教育フォーラム	A
幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	A
高齢者教育推進事業	A

学びと活躍推進事業	A
歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信	A
「音楽のまち生駒」推進事業	A
市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	A
地域スポーツ推進事業	A
新たな地域クラブ活動推進事業	A
2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり	評価
放課後子ども教室の運営	A
コミュニティ・スクールの推進	A
幼稚園コミュニティ・スクールの充実	A
高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくり	A
家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	A
「人を通して人を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	A
こども読書活動における家庭・地域・学校の連携	A
総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	A
スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	A

基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために

事業数 29 S : 4 A : 19 B : 6 C : 0

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備	評価
教職員のウェルビーイングを実現する働き方改革	A
学校屋内運動場空調設備整備事業	S
認定教育者資格取得支援事業	S
先進校視察支援事業	A
講師不足対策	S
「教頭の業務の再定義」を核とした学校の業務改善と教師の働き方改革施策	B
市立幼稚園における預かり保育の実施	A
特別支援教育の充実	A
積極的な情報公開と学校評価の実施	A
2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備	評価
小中学校施設の計画的な大規模改修事業	B
生駒南小学校・中学校整備事業	A
学校給食センター整備改修工事	A
これからの時代の学校図書館のあり方創造事業	A
教育系ネットワーク更新	S

保育料の段階的な無償化	A
待機児童の解消に向けた取組	B
市立保育所の老朽化施設の更新	B
壱分幼稚園のこども園化	B
学童保育の充実	A
3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備	評価
困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	B
図書館リニューアル事業	A
『生駒市史』編さん事業	A
市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	A
生涯学習施設整備事業	A
やまびこホール廃止関連事業	A
体育施設整備事業	A
生駒ふるさとミュージアム管理運営	A
文化芸術事業	A
文化財保護と歴史文化の普及	A

4 生駒市教育委員会活動点検評価委員の意見

点検及び評価にあたっては、法第26条第2項の規定により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するため、生駒市教育委員会活動点検評価委員2名を委嘱し、教育委員会による自己評価に対し、同委員から意見が提出されています。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育委員会の活動状況

事業名	教育委員会会議の開催	
事業の概要	定例会及び臨時会を開催し、議案及び報告案件を審議する。 教育委員会が所管する予算、規則の制定改廃、人事案件等について 議決、承認を行う。	
実績・成果	【会議開催回数】定例会：12回 臨時会：3回 【審議件数】議案：31件 報告案件：21件	
評価	A	直接会議の場に参加ができない場合でもオンラインを活用することにより会議に参加できる環境が整えられていることで、委員が直接議論を行う機会を創出でき、規則の制定改廃や学校での事案等の各案件について、十分な審議の上、遅滞なく議決、承認を行った。
担当課	教育総務課	

事業名	学校訪問、各施設視察、研究発表会・学校行事の参観	
事業の概要	定期学校訪問を実施。 30校園を対象に訪問し、授業の参観及び学校運営全般にわたる視察を行う。	
実績・成果	市内30校園で学校訪問を実施し、学校経営、教育課程の運用、学習指導など学校教育全般にわたり、学校の実態に即して指導助言するとともに、各学校が主体的に、より充実した教育活動や特色ある学校経営が推進できるよう支援した。また、授業の在り方を見直し、授業改善を進めるように助言した。	
評価	A	学校の取組を視察した。第3次生駒市教育大綱に沿った子ども主体の学び方に関して、新たな学び方の現状を確認できた。授業の実態に即した授業改善の観点を助言した。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	その他市教育委員会主催事業等への参加	
事業の概要	成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会等へ参加する。	
実績・成果	開催された教育委員会主催事業に参加した。 (二十歳のつどい、市民体育大会、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会)	
評価	A	市教育委員会等が主催する行事に参加し、市教育行政について理解を深めることができた。
担当課	教育総務課	

事業名	教育委員としての資質・能力の向上	
事業の概要	全国及び県で開催される研修会等へ参加し、教育委員としての資質・能力の向上を図る。	
実績・成果	市町村教育委員会研究協議会、近畿市町村教育委員会研修大会、奈良県市町村教育委員会連合会研修大会に参加。	
評価	A	対面に加えて、オンラインで開催された研修会にも積極的に参加することで、教育委員各個人において研鑽を積み、能力向上につなげた。また、国の動向や県内外の市町村教育委員会の現状や課題を把握したことは、教育委員の資質向上に有効であった。
担当課	教育総務課	

事業名	各種教育機関との連携	
事業の概要	教育委員会が設置する附属機関や教育関係機関・団体等の活用・連携により、多種多様な教育課題に的確に対応する。	
実績・成果	附属機関の活用や教育関係団体との連携を図った。 (社会教育委員、スポーツ推進審議会、子ども・子育て会議、市史編さん委員会)	
評価	A	例年同様に附属機関を効果的に活用し、多様化する教育課題への的確な対応を行った。教育関係機関との連携にも、継続的かつ積極的に取り組んだ。
担当課	教育総務課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	総合教育会議の開催（会議は市長が主催）	
事業の概要	ICT 教育や小中一貫教育をはじめとする教育環境の充実について、市長と協議を行う。	
実績・成果	文化芸術や歴史文化に関する事業では小中学校との連携を進めた結果、子どもたちの参加は大幅に増えたが、各種公演や展示の参加者の多くはシニア層が占めており、子どもから働き盛り世代にも関心を持って参加してもらえようような内容や実施手法の工夫が必要である。	
評価	A	今年度策定した第 3 次生駒市教育大綱の方針をもとに、重点施策の具体化に向けた協議ができた。また、学校整備や施設開放の制度見直しといった実務的課題に関して、行政内部での方向性を確認する機会となり、今後の円滑な事業推進につながる下地が整った。
担当課	教育政策室	

事業名	教育大綱アクションプランの策定	
事業の概要	大綱の基本理念及び基本方針を実現するため、具体的な施策・事業を掲げたアクションプランを策定し、PDCA サイクルに基づく実効性のある取組を推進する。	
実績・成果	令和 6 年度は、第 3 次生駒市教育大綱（令和 6 年 6 月施行）に基づく教育大綱アクションプランを策定した。新たな大綱の基本理念や基本方針を具現化するため、各施策の目的・内容・評価指標を明確に整理し、体系的な実施計画としてまとめた。また、施策推進における PDCA サイクルの運用に向け、関係部署との調整を行いながら、進捗管理の枠組みを構築した。	
評価	A	大綱の理念を具体化し、施策全体の見通しと重点の所在を明確に示すアクションプランを策定できたことは、実効性ある教育行政の推進に資するものとなった。今後は、各事業が計画に基づき適切に運用されるよう、指標管理を図る。
担当課	教育政策室	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
第 3 次生駒市教育大綱の基本理念や基本方針を具現化するために教育大綱アクションプランの実行を進めるだけではなく、大綱の内容を広く周知していく必要がある。	第 3 次生駒市教育大綱概要版を活用し、新たに生駒市に着任した教職員等到大綱の内容の周知を図る。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

教育大綱に基づく施策・事業

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

〔アクションプラン掲載事業〕

事業名	小学校高学年教科担任制推進事業	
事業概要	文部科学省は令和 4 年度から、教科指導の専門性向上と学校の働き方改革を目的として、小学校高学年での教科担任制を推進している。市内小学校においても、専科教員の加配を県に申請し、高学年における教科担任制の導入に取り組んでいるところである。 加配された教員は全学校に配置されるには十分でない。そこで、県への専科教員の加配を求めつつ、学年全体で学級担任も含めた教科担任制の態勢を整備する。これにより担任一人が学級の問題を抱え込むことなく、多くの教師が連携して児童一人一人の学びを支援していくことを目指す。	
目標	高学年において教科担任制を進め専門性の高い授業を行う。	
取組設定	・週 4 日 3 人 ・週 5 日 4 人	
実績・成果	各小学校に必要な人員を配置することができた。	
評価	A	高学年に教科担任が入ることで、専門的が高い授業が行えるようになった。また、児童に関わる教師が増えたことで、多様な視点で子どもを捉えることができ、学習面・生活面ともに良い効果が生じた。
担当課	教育総務課・教育指導課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学校図書館の充実による読書活動推進	
事業の概要	現在、小中学校すべてに学校司書を配置しており、一定の効果が得られている。こどもたち自らが本の魅力に出会い、さらに読書を通じて豊かな人間性を育むため、学校司書の配置を拡充する。	
目標	目標名	目標値
	①学校司書配置日数 ②市内中学生ビブリオバトル開催数	①3日/週 ②1回/年
取組設定	・学校司書を全小中学校に配置 ・ビブリオバトル市内中学生大会の実施	
実績・成果	・小中学校に週3日学校司書を配置した。 ・ビブリオバトル開催数：1回	
評価	A	学校司書と司書教諭が連携し、図書館環境の整備や関連イベントの開催を通じて、児童生徒の読書意欲を高めた。特に、学校司書が中心となって実施した中学生対象のビブリオバトルは、生徒が主体的に本と向き合う機会となり、読書活動の活性化に寄与した。
担当課	教育指導課	

事業名	生駒こどもチャレンジ補助事業	
事業の概要	子どもが課題に挑戦する機会を拡充すると共に、学校の各種コンテスト等の運営経費を補助する制度を創設する。児童生徒が挑戦し、実現し、達成感を味わうことができる機会を増やすことで、児童生徒の創造性が培われ、自己肯定感も高められる。	
目標	目標名	目標値
	実施学校数	2校
取組設定	・生駒こどもチャレンジ補助事業の継続実施	
実績・成果	1校がロボットコンテストに、1校がブラスバンドのコンテストに参加した。	
評価	A	コンテストに参加し、チームで協力することを通して、達成感を味わう機会を複数校で提供できた。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	部活動支援事業	
事業の概要	中学校において、専門的な技術指導力を備えた指導者が不在の部に対し、地域の適切な人材を外部指導者として派遣し、部顧問と協力して指導・助言を行うことにより、部活動を充実させる。また、生徒自身も外部指導者と協働し主体性をもって活動できるようにする。	
目標	目標名	目標値
	部活動指導員配置時間数	4320時間
取組設定	・中学校に外部指導者を配置	
実績・成果	バスケットボール、ハンドボール、バレーボール、ソフトボール、バドミントン、野球、サッカー、剣道、水泳、吹奏楽、茶道など、専門的な技術指導力を備えた外部指導者を8校に派遣。部活動指導員実施時間数：4,176時間	
評価	A	専門的な技術指導力を有する人材が不足する中で、学校長が必要と判断した部活動に対して、適切に外部指導者を派遣できた。今後部活動の地域移行を本格化させるために、前年度より多くの指導員を任用したことは、地域人材の発掘と活用の実現と言える。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	キャリア教育推進事業	
事業の概要	あこがれいこまびと講演事業、学校創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業を行う。地域出身の文化人、スポーツ関係者、事業者等、社会で活躍されている方と連携し、体験活動や講演等を通して、児童生徒が郷土愛を持ち、自分の夢に向かって生き生きと活動し、自己有用感を持って将来社会で活躍できる人材を育成する。また、児童生徒の思いや考えも大切にし、どのような学びを必要としているのかを探る。	
目標	目標名	目標値
	キャリア教育プランナーとの連携事業数	20回
取組設定	・あこがれいこまびと講演事業、学校教育創造推進事業、キャリア教育プランナーとの連携事業の実施 ・取組のカリキュラム化	
実績・成果	キャリア教育プランナーとの連携事業は26回実施され、学校ごとの教育課程に即した実践が展開されつつある。 プランナーは事前に学校と打合せを重ね、各校の課題や学年の特性に応じた内容で授業や体験活動を企画・実施した。 あこがれいこまびと講演事業や学校創造推進事業においても、地域の多様な大人との出会いの場を通して、児童生徒が将来の自分の姿を思い描き、学ぶ意欲を高める取組が継続された。	
評価	S	地域とつながる多様なキャリア教育の機会が継続的に提供され、児童生徒が自らの将来を主体的に考えるきっかけとなった。特に、プランナーとの継続的な連携により、学校現場での取組が質量ともに充実してきており、今後は各校でのカリキュラム化と評価方法の精緻化を目指す。
担当課	教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援	
事業の概要	「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援として、希望する教職員を対象に、継続的な伴走型研修や助言を受けられる機会を提供する。また、インターネット上に用意された空間を利用し、学校間を越えて、教職員同士が学び合える場を提供する。	
目標	目標名	目標値
	伴走型研修参加人数	20人
取組設定	・「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善のための伴走型研修の実施	
実績・成果	令和6年度は、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善に向けて、伴走型の研修をオンラインで8回、対面で3回実施し、計92名（市内36名、市外56名）の教職員が参加した。 研修では、参加者が実際の授業実践を持ち寄り、互いの工夫や課題を共有しながら継続的な対話と振り返りを行った。 市外からの熱意ある実践者との交流が、市内教職員にとっても刺激となり、学びの質を高める要素となった。 また、オンラインコミュニケーションプラットフォームを活用し、研修参加者同士が学校の枠を越えて学び合える環境を整備した。	
評価	S	市内外の多様な教職員が継続的に学び合う機会が創出され、実践知の往還が授業改善の動機づけと質的向上につながった。今後は、こうした研修の成果を校内で共有・展開していく仕組みづくりや、継続的に参加者層を広げていくための工夫が求められる。
担当課	教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	教育・保育の質の向上	
事業の概要	全国的に報告されている保育施設内での不適切な保育の事例等から教育・保育の質の向上を実現するための手がかりを得る。また、より質の高い適切な教育・保育とは何かを考え、学び合い、子どもの人権を尊重した教育・保育のあり方を再確認し、実践するために研修内容の充実を図る。	
目標	目標名	目標値
	研修開催数	1回
取組設定	・不適切保育防止に向けた研修開催	
実績・成果	前年に引き続き、令和6年度は「不適切保育とは何か」「こどもの権利条約」について研修会を1回開催し、参加者の理解を深めた。	
評価	B	公私立保育施設職員研修会として公私立関係なく市内の保育施設を広く対象として研修会を実施し理解を深めた。不適切な保育を理解した上で、適切で質の高い保育を学び深めていく。一方、全ての職員が受講できてはいない。
担当課	幼保こども園課	

事業名	保幼小接続推進事業	
事業の概要	幼児と児童、職員同士の交流、参観や研修等具体的な取組を通して、幼児期の終わりまでに育って欲しい姿や主体的・対話的で深い学びについて、互いの教育を理解する。	
目標	市内公私立幼稚園・保育所・こども園・公立小学校が連携し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。	
取組設定	・接続カリキュラムの実態把握 ・課題の検討 ・改善方法の検討 ・具体的な実践への適用	
実績・成果	保幼小接続推進会議を6月、9月、1月と実施した。職員が互いの園、学校に行き参観することに加え、園児と児童が交流し、小学校区毎の保幼小接続プログラムを作成することができた。	
評価	A	完成した保幼小接続プログラムに合わせて、さらに具体的な内容について「架け橋期カリキュラム」を令和7年度作成予定
担当課	幼保こども園課・教育指導課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「サイエンス探究教室」の実施	
事業の概要	個々の多様な能力や興味関心をもとに、こどもたちが「自分で考え、調べ、実践する」力を伸ばせるような機会として、奈良先端大や奈良高専など高等教育機関と連携しながら、市内の中学生を対象とした科学(サイエンス)に関する「探究型」の連続講座を開催する。	
目標	目標名	目標値
	教室の参加者数	135 人
取組設定	・サイエンス探究教室の開催(3テーマ×3回/テーマ=計9回)	
実績・成果	・テーマ①「プログラミングを学ぼう」3回 参加者のべ39人 ・テーマ②「コンピューターの中をのぞいてみよう」1回 11人 計4回 のべ50人参加	
評価	A	講座内容や日程が整わず目標とした開催数の実施には至らなかったが、両テーマとも専門的な内容にも関わらず一定数の参加者を集めることができた。いずれの講座も子どもたちが「疑問について考え、情報を集め、理解・分析し、答えを導く」ことを体験する機会として充実したものであった。
担当課	生涯学習課	

事業名	ビジネス支援事業	
事業の概要	ビジネスに役立つ知識を学ぶ場として連続講座を開催し、様々な仕事に携わる市民が集い情報交換し交流することにより、新しいネットワークを作り出す。 多様な参加者が興味を持つビジネスに関するテーマとして「論語」のほか、ビジネスや本、歴史等に関する講座を開催し、語り合う場を設ける。	
目標	目標名	目標値
	参加者数	20 人
取組設定	・働く世代が興味を持つテーマを中心に連続講座を9回開催	
実績・成果	「働く大人の週末ゼミ」を全9回開催し、延べ244人参加、平均参加者数27.1人/回となった。	
評価	A	講座テーマの独自性や新規性に関心を持つ市民も多く、市民の学びの場となった。
担当課	図書館	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業名	小学校1年生30人程度学級の実施	
事業の概要	本市独自の取組として、学校教育の充実を図るため、小学校1年30人程度学級を実施する。	
実績・成果	全小学校を対象に30人程度学級を実施することで、小学校1年生に対して、きめ細かい指導を行った。	
評価	A	国の少人数学級の実現として、35人学級が実施されることとなり、1年生について30人程度となるように、市で講師を配置し、引き続きすべての学校を対象に達成することができた。
担当課	教育総務課	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
これまで、中学校の部活動の指導を支援するために、部活動支援事業を行ってきたが、令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する内容の通知が県からあった。学校活動の今後について市として方針を出して進めていく必要がある。	部活動の地域移行において、教育指導課とスポーツ振興課が連携をして、学校部活動の在り方について検討し、子どもたちがやりたいスポーツ環境を整えていく。
授業改善の伴走型支援を受けた教員が、その経験を校内に広げ、市全体で授業改善を目指す環境を作る必要がある。	市職員が積極的に各校を訪問し、授業改善に積極的な教員が孤立せずに校内で自身の取り組みを発信できる環境を整えていく。
子育てや仕事で忙しい世代の図書館利用促進や、図書館や読書に関心がない人等への読書啓発等が必要である。	地域住民や図書館利用者、市役所関係課、学校と積極的に連携し、デジタル化も視野に入れながら、読書人口を増やすとともに、新たな文化を創造するまちづくりの拠点としての図書館機能を強化する。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

市立小・中学校 児童生徒数（令和 6.5.1 時点）（単位：クラス、人）

小学校名	クラス数	児童数
生駒	31	743
生駒南	18	340
生駒北	9	145
生駒台	31	726
生駒東	17	430
真弓	23	619
俵口	20	413
鹿ノ台	23	528
桜ヶ丘	25	649
あすか野	33	807
壱分	30	752
生駒南第二	9	185
合 計	269	6,337

中学校名	クラス数	児童数
生駒	18	551
生駒南	8	131
生駒北	6	77
緑ヶ丘	14	442
鹿ノ台	12	254
上	21	666
光明	11	338
大瀬	20	511
合 計	110	2,970

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

〔アクションプラン掲載事業〕

事業名	自殺対策推進事業	
事業の概要	令和6年3月に策定した「生駒市自殺対策計画」に基づき、「SOS の出し方に関する教育」の研修を実施する。そして児童生徒の心身の状況の把握や児童生徒への相談窓口の周知徹底を行い、スクールカウンセラー等の活用を実施する。	
目標	目標名	目標値
	研修回数	21回
取組設定	・初任者研修での実施 ・各校にて児童生徒に対して開催	
実績・成果	・初任者研修と児童生徒対象に SOS の出し方授業を開催した。 ・全校(20校)にて授業を開催した。/回数:21回	
評価	A	児童生徒の自殺の現状や、自殺に至る要因などを学ぶことによって、児童生徒の自殺に対しての学校・教員の危機感を高めた。 また、教員がカウンセリングマインドを身につけることの重要性や、自傷行為を行う児童生徒に対する対処法などを学ぶことで、学校として可能な対応についての理解が浸透した。
担当課	教育総務課・教育指導課	

事業名	デジタルシティズンシップ教育の推進	
事業の概要	情報社会における安全やルールを児童生徒が主体的に考え、正しく理解し行動するための情報モラルを育成する。	
目標	目標名	目標値
	情報活用リテラシー自己評価	58%
取組設定	・各校で教職員対象の研修	
実績・成果	指導主事による教員向け情報リテラシー研修を20校に実施した。 情報活用リテラシー自己評価:58%	
評価	A	指導主事による教員向け情報リテラシー研修を実施するだけでなく、管理職及びICT活用教育リーダー向けにデジタルシティズンシップ教育について研修を実施し教員の指導力向上を図った。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	いじめ防止等の施策推進	
事業の概要	令和4年4月に策定した「生駒市いじめ防止基本方針」に基づき、いじめ防止や早期発見につながる取組を推進する。	
目標	目標名	目標値
	いじめ問題対策連絡協議会開催回数	2回
取組設定	・生駒市いじめ問題対策連絡協議会の開催 ・いじめアンケートの実施 ・発達支持的生徒指導の考え方に基づいた児童生徒支援	
実績・成果	生駒市いじめ問題対策連絡協議会を2回開催した。	
評価	A	「生徒指導提要の改訂と発達支持的生徒指導の考え方及びネットいじめ」を主なテーマに教育指導課から資料を提供して議論の機会を設けた。
担当課	教育指導課	

事業名	特別支援教育の充実	
事業の概要	令和4年文部科学省の調査では、通常学級に在籍する「特別な支援を必要とする児童生徒」の割合は約8.8%である。特別支援学級在籍児童生徒の教育的ニーズを把握し適切な支援を行う。	
目標	それぞれの障がい特性に合わせた支援を行う。	
取組設定	・特別支援教育支援員の配置 ・特別支援教育コーディネーター研修の実施(年9回)	
実績・成果	特別支援教育支援員を小学校12校、中学校8校にのべ5,018日配置した。	
評価	A	特別支援学級在籍児童生徒や通常学級に在籍し特別な支援を必要とする児童生徒の教育活動を支える環境を整えた。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	不登校支援推進	
事業の概要	学校に登校しづらい児童生徒に対して居場所となる「子どもの居場所・学び支援室」の設置運営。	
目標	児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるようにするための体制を校外に整える。	
取組設定	・安心して過ごせる環境と体制の確立 ・ほっとルーム入室対象を小1～中3に拡大する	
実績・成果	心理的あるいは情緒的な原因などにより学校に通いづらい児童生徒に対し、安心して過ごせる環境整備及び支援体制を確立できた。	
評価	A	心理的あるいは情緒的な原因などにより学校に通いづらい児童生徒に対し、居場所支援を行った。在籍児童生徒数は、いきいき50名、のびのび51名である。
担当課	教育指導課	

事業名	校内サポートルーム事業	
事業の概要	教室に入りづらい児童生徒を対象に、安心して過ごせる居場所を学校内に設置し、不登校支援を推進する。	
目標	児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるようにするための体制を校内に整える。	
取組設定	・2校をモデルに実証を行う ・環境整備を行い、ガイドラインを作成する	
実績・成果	市内中学校2校をモデル校として実証事業を行うことができた。環境整備、ガイドラインの作成及び校内サポートルーム支援員を配置した。	
評価	S	校外の生駒市子どもの居場所・学び支援室だけでなく、児童生徒が安心して過ごせる居場所を校内にも設置することにより、教室に入りづらい生徒も支援した。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	自校式通級指導教室推進事業	
事業の概要	令和5年度から現在配置している県費通級指導教師6人に加え、市費で4人配置することにより、各校平均週2回巡回を行っている。今後、県から担当教員の配置が増えるにあたり、通級指導を行う教員を育成する。通級指導教室の運営について指導助言及び運営補助を行い、自校式の通級指導教室を推進する。	
目標	支援が必要な児童生徒が自校で通級指導を受けることができるように体制の充実を図る。	
取組設定	・通級指導を学ぶ教員への補充教員 1人5校担当×2人＝週10校配置	
実績・成果	全校にて自校式通級指導教室を準備し、指導を実施。 小学校6校、中学校4校に対し、通級による指導を学ぶ教員への補充教員の配置。	
評価	A	自校に通級指導教室を準備したこと、教員が通級による指導を学ぶ機会を設けることで、必要な児童生徒に必要な支援が届けられるようにした。
担当課	教育指導課	

事業名	スクールカウンセラー配置の拡充	
事業の概要	不登校や学校生活に関わる悩み等を抱える児童生徒に対してカウンセリングを行うとともに、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行うことを通じて学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図る。	
目標	安心して相談できる体制を整える。	
取組設定	・スクールカウンセラーの配置 中学校(月4)、小学校(月2) ・スーパーバイザー(年30回) ・教育支援施設(毎週2人) ・ほっとルーム(週1日2人) ・SOSの出し方の授業を行う	
実績・成果	市費スクールカウンセラーを、中学校で週に1回、小学校で月に2回、1回4時間の活用を行った。	
評価	A	スクールカウンセラーの活用を通して、学校、児童生徒、教員及び保護者に対する指導・助言・支援を行い、学校のカウンセリング機能や教育相談体制の充実を図ることで適切な対応ができるとともに、より多くの相談への対応が可能となった。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	スクールソーシャルワーカー配置の拡充	
事業の概要	社会福祉等の専門的な知識や技術を有するスクールソーシャルワーカーを配置し、問題を抱えた児童生徒に対し、置かれた環境に働きかけたり、関係機関等とのネットワークを活用したりするなど多様な支援方法を用いて、課題解決への対応を図る。	
目標	支援が必要な児童生徒に対して課題解決ができる体制を整える。	
取組設定	・不登校支援体制を整える ・学校へ訪問し、現地で相談を受け対応する	
実績・成果	スクールソーシャルワーカーは週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣を行った。不登校支援体制の整備について助言を得た。	
評価	A	スクールソーシャルワーカーを週に1回教育支援施設に配置し、学校の要請に応じて派遣した。不登校支援体制の整備における課題の洗い出し及び今後の方向性についても、助言をもとに体制を整備した。
担当課	教育指導課	

事業名	多様性を認め合う場の提供	
事業の概要	世代や障がいの有無を越えてアート作品の製作に挑戦するアートプロジェクトの実施を通して、お互いの違いを受け止め、多様性を認め合う意識を醸成する。	
目標	障がいの特性が「個性」となることを知り、参加者それぞれが「障がいの有無」をはじめ他者との「違い」を受け止め、多様性として認め合う意識を高める機会とする。	
取組設定	・「インクルーシブアートワークショップ」の開催	
実績・成果	みんなでふれる！つくる！こえる！「インクルーシブアートワークショップ」(2日間) 令和7年1月18日(土)13:30～16:30 23人 令和7年2月8日(土)13:30～16:30 23人 「ちがいを越える展覧会」(5日間) 令和7年2月20日(木)～24日(月・振)11:00～19:00 合計244人	
評価	A	多様な講座を実施することができ、アートを通じて幅広い年齢層が参加され、満足度の高い事業となった。また、展覧会では社会の多様性を共感、理解し合うことをテーマに多くの方に来場していただけた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	図書館読書バリアフリー事業	
事業の概要	障がい、高齢等の理由により、図書館の利用に困難を感じている人が気軽に利用できる図書館を目指し、ボランティアとともに読書推進を行う。	
目標	図書館利用に障がいがある人にとって、読書に親しむ機会を通して社会参画となることを目指す。	
取組設定	・音訳ボランティア養成講座、音訳サービスの実施 ・宅配サービスの実施 ・知的障がい者のための代読サービス実施 ・NAIST 連携事業 留学生と絵本であそぼ	
実績・成果	・音訳ボランティア養成講座全11回、延べ107人参加 - 耳で楽しむ本の会 10回、延べ340人参加 - 対面音訳 41回実施 録音図書作成3点 ・宅配サービス 350回実施、1,437冊貸出 ・知的障がい者のための代読サービス等 62回 ・NAIST 連携事業 留学生と絵本であそぼ 2回 71人参加	
評価	A	図書館利用に障がいがある人が、ボランティアのサポートのもと、様々な図書館サービスを利用することにより、読書推進が強化されることに加え、市民、利用者の交流の場となった。
担当課	図書館	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
市内中学校 2 校に対し、実証として校内サポートルームを設置した。他の学校に対しても同様に教室に入りづらい児童生徒の居場所づくり及び支援体制を整えていく必要がある。	令和 7 年度は、引き続き実証事業として校内サポートルームを 10 校に増やし、教室に入りづらい児童生徒の居場所づくり及び支援をおこなう。
図書館の利用に障がいがある人や、様々な理由によって図書館へ来ることが困難な人に対するサービスを実施しているが、利用できる時間が限られているなど、いつでも気軽に図書館利用ができる環境にはなっていない。	引き続き現在のサービスを実施するとともに、市民ボランティアの活動充実、研修による職員のスキルアップ等を図り、障がい者サービスの拡充を目指す。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針 2 学びを通してつながり合える地域であるために

1 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業名	いこま教育フォーラム	
事業の概要	生駒市の学校教育の“今”を知り、“これから”を考える「いこま教育フォーラム」を継続的に開催し、これからの生駒の地域と学校について地域住民や保護者と共に考える機会を設ける。	
目標	目標名	目標値
	開催回数	2 回
取組設定	・いこま教育フォーラムの実施	
実績・成果	令和 6 年度は、第 3 次生駒市教育大綱の内容共有とインクルーシブ教育の推進をテーマに、いこま教育フォーラムを 2 回開催した。第 1 回では、策定された教育大綱の概要と背景、市民・児童生徒の意見を反映したプロセスについて紹介し、先進自治体の実践事例も交えながら、今後の方向性について対話を深めた。第 2 回では、すべての子どもが共に学ぶ環境づくりをテーマに講演と意見交換を実施し、多様な立場の参加者が教育の包摂性について理解を深める機会となった。	
評価	A	教育行政の方針を保護者・教職員・地域の方々と共有し、共に学び考える場としてフォーラムが着実に機能している。令和6年度は、教育大綱策定の背景や考え方を参加者に丁寧に伝えるとともに、インクルーシブ教育の空間づくりというテーマを取り上げ、地域と学校の連携に資する場となった。今後は、こうした議論の成果を施策や現場にどう反映させていくかが課題である。
担当課	教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	幅広い世代への学ぶ機会の提供と地域の人材活用	
事業の概要	「IKOMAサマーセミナー」など、様々な特技や専門知識等を持った市民自身が先生となって、市民への学びや体験の場を提供するとともに、市民が活躍する機会とする。 また、このような場づくりを市民が主体となって継続的に取り組み、さらに発展していけるよう支援することで、生駒の誇る「市民力」をさらに引き出し、市民の持つスキルやアイデアを活かしたまちづくりにつなげる。	
目標	目標名	目標値
	サマーセミナーに参加した「先生」の実人数(累計)	190人
取組設定	・市民主体の実行委員会による開催・運営	
実績・成果	R6.7.28(日)コミュニティセンター 講座数 45講座 参加先生数 76人(累計205人) のべ受講者数 525人	
評価	A	前年度より実行委員数も増加し、ネットワークを通じて先生となる人材の発掘やセミナーの構成を作ることができた。 アイデアを持ち寄り特別講座やフォトブースの設置など興味を引く学びや体験の場を作り、密度の濃いセミナーとなった。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	高齢者教育推進事業	
事業の概要	人生100年時代にあって、第2・第3の人生をより充実して過ごせるよう、学びと交流の場への参加を通して個々の知識教養の充実を図るとともに、学びで得た知識や経験を地域活動への参加等まちづくりにつなげるほか、安心して心豊かなセカンドライフを支援する取組を進める。 ・いこま寿大学の運営 62歳以上の市民を対象に、様々な学習活動を通して「健康づくり」「生きがいづくり」「仲間づくり」をしながら、「まちづくり」でも活躍できることを目指して学ぶ。 ・セカンドライフ充実支援 講演を通して豊かなセカンドライフのための意識づけを行うとともに、個別のテーマによる実践講座により具体的なプラン作成や行動につなげる。	
目標	目標名	目標値
	セカンドライフ充実支援講座の受講者数(累計)	600人
取組設定	・いこま寿大学の運営 ・セカンドライフ講演会の実施 ・セカンドライフ実践講座の実施	
実績・成果	・「いこま寿大学」について、学習期間(2年または4年)の選択や再入学を可能とした制度での運営 ・一般教養学習会のなかで地域共生社会の実現に向けた講演会を実施。 ・豊かなセカンドライフの実現に向けた講座の開催 実践講座 3回 参加者数:計63人 講演会の開催 1回 参加者数:計152人 累計575人 ・気らくネットによる社会貢献活動	
評価	A	寿大学については、予定通りの学習活動を行うことができ、学生に対して充実した学びを提供した。 学生数が年々減少していることに伴い、今後学びの種類やあり方については検討が必要である。 セカンドライフに関しては、実施回数は昨年度より少なかったものの、満足度は高く、特に「片付け講座」に関しては学んだことを当日から実践しようとする意欲が見られるなど内容は充実していた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学びと活躍推進事業	
事業の概要	主に働き盛り世代を対象に、人生の選択肢を増やし、ウェルビーイング(身体的・精神的・社会的に良好な状態)に生きるための知恵・スキル・つながり等を育む学びの場「ischool」を展開する。ischoolでは、社会や地域課題、市民ニーズを踏まえた多様なテーマの講座を、市民協働や他課との連携により企画・運営する。	
目標	目標名	目標値
	アンケートで「今後の暮らしで活かしたいことがあった」と回答した人の割合	70%
取組設定	・市民協働や他課との連携による講座の開催 ・学びのポータルサイトの運用	
実績・成果	・未来ひろがる学びの場「ischool」 学びと交流の社会見学「まちミル」 開催回数：1回 参加者数：39人 「ミライの教室」 開催回数：6回 参加者数：250人 「ischool for kids」生駒妖怪博物館をつくろう！ 開催回数：1回(3日間) 参加者数：20人 初めての人のためのITエンジニア講座 開催回数：1回(4日間) 参加者数：34人 ・「学びのポータルサイト」の運営 年度中のページビュー数：64,019	
評価	A	ischoolでは、子育て世代のニーズに沿って多様な講座を市民と連携して企画、実施した。 それぞれの講座において、より参加者の興味関心や学びのニーズに沿った内容になるよう、昨今の情勢を含め検討をおこなった。特にこどもたちが地域の中で体験を通して学び、探求心や創造力といった「学びたい」気持ちを育むアプローチを創出することを目的に「ischool for kids」を3日間開催し、参加者からは満足度の高い講座になっただけでなく、地域のことを知る社会教育に繋がった。 「学びのポータルサイト」では講座の告知から、開催後のレポートによる学びの振り返りまで様々な情報を発信することで、多くの関心を集めることができ年々認知度が上がってきている。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信	
事業の概要	伝統文化に親しむ機会の拡充や継承を進めるほか、郷土学習の拠点である生駒ふるさとミュージアムの事業（特別展示や、市史編さん事業に携わる専門家等と連携して実施する講座、小学校向け出前授業等）を通して本市の歴史文化を発信し、市民の郷土愛を高める。	
目標	目標名	目標値
	生駒ふるさとミュージアムの年度来館者数（館外事業参加者を含む）	9,000 人
取組設定	・市内小学校を対象とした、高山竹林園での茶道体験補助事業の実施 ・ふるさとミュージアムにおける講座、特別展・企画展、出前授業等の開催	
実績・成果	・高山竹林園での茶筌製作実演や茶道体験の学習支援 参加校数：8校 参加者数：計755人 ・生駒ふるさとミュージアムの来館者数（年間）：7,512人 ・小学校への出前授業実施校数：7校 参加者数688人	
評価	A	・高山竹林園、生駒市茶道協会との連携により、市内小学校児童が茶筌や茶道に触れる機会を提供した。 ・ふるさとミュージアムにおいては、本市の文化財や歴史にふれる展示や講座、講演会等を開催したほか、小学生を対象に昔のくらしやまちの移り変わりなどをテーマとした出前授業にも力を入れるなど、幅広い世代に本市の歴史文化を伝えることで、郷土愛の醸成につなげた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「音楽のまち生駒」推進事業	
事業の概要	公募提案型の「市民みんなで創る音楽祭」や市民吹奏楽団を中心とした吹奏楽事業等により、市民との協働で「音楽のまち生駒」を推進し、音楽文化の担い手の拡大や、文化芸術を通じた本市の魅力向上を図る。	
目標	目標名	目標値
	市主催音楽事業の来場者数	7,600人
取組設定	・「市民みんなで創る音楽祭」の開催 ・リベラルコンサートの開催 ・市民吹奏楽団事業の開催 ・ライオンズコンサートの共催	
実績・成果	・「市民みんなで創る音楽祭」 提案団体 11団体 実施団体 9団体 来場者数 2,804人 出前授業 7校 参加者 2,691人 ・「第71回リベラルコンサート」(11月17日開催) 来場者数 550人 ・市民吹奏楽団事業 「いこすいフェスタ 2024」(6月23日開催) 来場者数 800人 「0才から楽しめるファミリーコンサート」(2月2日開催、2回公演) 来場者数 1,860人 「いこま吹奏楽の日」(3月2日開催) 来場者数 1,800人 ・「第30回ライオンズコンサート」(2月22日開催) 来場者数 600人	
評価	A	・「市民みんなで創る音楽祭」は新しく創設した募集枠である「自主事業枠」2公演を含む9公演を行い、市内外の観覧者に良質の音楽を届けた。また、市内小中学校へのアウトリーチ公演は実施校数や参加者数も増え、子どもへの音楽教育の充実にも貢献した。 ・吹奏楽事業を含めいずれの事業も多数の来場者に恵まれ、「音楽のまち生駒」を市内外に発信した。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくり	
事業の概要	市民との連携や「協創」のもと、人と本、人と人をつなぐ事業を行い、新たな文化を創造するまちづくりの拠点となる図書館を目指す。市民と協働しイベントや図書館事業を実施するほか、まちかど図書室等、市民から市民へ読書啓発を行う団体を増やし、その活動をサポートする。	
目標	目標名	目標値
	団体貸出登録数	165 団体
取組設定	・本棚の WA、未在亭 ・まちかど図書室 ・官民協創事業はっぱクラブ試行	
実績・成果	・本棚の WA 3回実施延べ 64 人参加 - 未在亭 3回実施延べ 67人参加 ・まちかど図書室 39団体登録 出張図書館(貸出サービス)133回実施 2,244冊貸出 リサイクル本480冊譲渡 読み聞かせ等70回実施 ・官民協創事業はっぱクラブ試行 登録者54家族 イベント4回実施 延べ 81 人参加 ・団体貸出登録数 168団体	
評価	A	様々な団体や市民と協働し、読書推進を図りながら、市民のネットワークづくりにつなげた。
担当課	図書館	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	地域スポーツ推進事業	
事業の概要	・多くの市民が参加しやすいスポーツイベントとして「いこまスポーツの日」を開催し、スポーツを始めるきっかけとすることや、市内総合型地域スポーツクラブやスポーツ施設指定管理者の事業を紹介することで、市民の継続的なスポーツ活動に繋げる。また、子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が気軽に参加できる「スポパ+（プラス）」を開催する。 ・障がいの種別や程度に関らず「やりたい」「やってみよう」という思いを持ち、スポーツに親しみ楽しむことができるよう、スポーツ施設の開放事業や障がい児を対象とした体づくり運動プログラム「できるがみえる」を実施する。 ・スポーツに夢や憧れを抱けるように、メダリストやトップアスリートを招き、スポーツ教室や講演会を開催し、有名スポーツ選手と触れ合う機会をつくる。	
目標	目標名	目標値
	各種事業の開催	12回
取組設定	・いこまスポーツの日やスポパ+の開催（2回） ・障がい（児）者のためのスポーツ施設開放事業の開催（4回） ・障がい児のための体づくり運動プログラムの実施（4回） ・メダリストやトップアスリートを招聘しスポーツ教室や講演会の実施（2回）	
実績・成果	・スポーツを始めるきっかけやスポーツに親しんでもらえる1日とするため「生駒スポーツの日」（令和7年3月20日）を開催 参加者数：1,021人 ・子どもから高齢者、障がい者などあらゆる市民が気軽に参加できる「スポパ+（プラス）」（令和6年10月27日）を開催 参加者数：229人 ・障がい（児）者のためのスポーツ施設開放事業：4回開催 ・学校生活で頻度の高い“跳ねる”“投げる”“蹴る”の3つの動きを、作業療法士、理学療法士、スポーツ指導者により小集団で実施する障がい児用運動プログラム：4回開催 ・田中琴乃氏による新体操体験会（20人参加）や、浅香山部屋によるちびっこ相撲体験会（18人）の実施	
評価	A	「いこまスポーツの日」の開催にあたり、市スポーツ施設指定管理者や市内総合型地域スポーツクラブ等と連携したことで、バルセロナアカデミー奈良校によるサッカー教室や、リレーマラソン、eスポーツ体験会、芝生でピラティスの開催などを実施し、多くの市民の参加を促した。 従来、10月に実施していた「ファミリースポーツの集い」と「障がい者・児のためのスポーツパーク」を統合し、全市民を対象として体育館及びグラウンドを開放し、性別、年齢、体力、障がいの有無に関わらずスポーツを行うことができるイベント「スポーツパーク+（プラス）」に変更した。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

	また、障がい児用運動プログラムは、昨年度から引き続き参加している人もおり、参加者から高い評価を得た。 トップアスリート連携事業については、オリンピックによる新体操体験会や相撲体験会など国内外のトップレベルのアスリートと触れ合う機会を創出した。
担当課	スポーツ振興課

事業名	新たな地域クラブ活動推進事業
事業の概要	学校部活動の地域移行を見据えた「新たな地域クラブ」を拡充するため、引き続き「新たな地域クラブ活動推進協議会」の運営とコーディネーターを配置するとともに、学校関係部局や中学校等との連携を図る。また、新たな地域クラブ活動の推進に合わせ、学校体育施設開放事業における運用ルールの見直しや有料化等の検討を行う。
目標	奈良県が掲げている「令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動の廃止」に向け、新たな地域クラブの拡充のため、実施主体の組織体制の強化などの環境整備を図る。
取組設定	・推進協議会の運営 ・コーディネーターの配置 ・新たな地域クラブ拡充 ・学校体育施設開放事業運用ルールの見直し
実績・成果	・新たな地域クラブ活動推進協議会を2回開催 ・コーディネーターを引き続き配置 ・新たな地域クラブ活動を7クラブ実施 ・学校体育施設開放事業運用ルールの見直しに向けた検討
評価	A 学校部活動の地域移行や地域連携に伴う国の実証事業を受託するとともに、新たな地域クラブ活動推進協議会の開催やコーディネーターによる調整など、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保できるよう支援を行った。 県の令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する方針を受け、新たな地域クラブ活動の推進に向け教育指導課や学校現場との調整を行うとともに、新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針(案)の検討を行った。 また、令和8年4月からの運用に向けて学校体育施設開放事業運用ルールの見直しに向けた検討を行った。
担当課	スポーツ振興課

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
いこま教育フォーラムの内容を、理論で終わらずに現場に実践できる仕組みを構築する必要がある。	現場に寄り添った支援ができるように、積極的に学校へ訪問して教職員が気軽に相談できる体制づくりを進める。
学びを通じてつながり、支えあう地域づくりの実現のため、あらゆる世代へ学ぶ機会や交流の場を創出しているが、「いこま寿大学」入学者数の減少している状況から学びのニーズが変化してきていると考えられる。 また「働き盛り世代」については日々の生活が多忙で学びの時間の確保が課題であると考えられる。	「いこま寿大学」については、60歳を過ぎても現役で働く人口が増加している中、学びのニーズの変化をとらえ、仕組みや内容を変更していく必要がある。 また、「ischool」では多様な世代を対象とした魅力ある講座の実施を進めていく。
図書館では様々なイベントや活動を通してネットワークを構築し、様々な連携の力によって、多くの事業を成している。読書という活動によってつながれる人はまだ限られており、より多くの人に関心を持ってもらう必要がある。また、「はっばクラブ」では保護者がアプリ内で意見交換することで交流を深めようとするものであったが、活発な意見交換が行われなかった。	図書館という場で初めて出会う市民が、様々な活動に参加しやすい場となるような勧誘方法や、プログラム作成など工夫する必要がある。

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

<参考データ>

いこま寿大学の在籍者数等

(単位：クラブ、人)

	クラブ数	在籍者数	入学者数	定員	応募者数	卒業者数
令和3年度	16	452	84(※)	275	65	129
令和4年度	16	355	73(※)	275	71	96
令和5年度	13	363	159	215	161	101
令和6年度	12	329	116	191	122	118

(※) 令和2年度に願書を提出したがコロナ禍のため入学を見送り、令和3年度に改めて入学した者を含んでいる。

生駒ふるさとミュージアム来館者数

(単位：人、件)

	大人	子ども	合計	多目的室利用件数・人数	
令和3年度	5,230	3,309	8,539	339	5,039
令和4年度	5,217	2,401	7,618	306	5,153
令和5年度	5,151	1,957	7,108	249	5,488
令和6年度	5,155	2,357	7,512	235	4,871

文化芸術事業の開催状況

(単位：回、人)

	種 別	令和5年度		令和4年度	
		延べ回数	参加者数	延べ回数	参加者数
市主催事業	市民文化祭等	18	12,161	18	12,713
文化芸術団体補助事業	コンサート等	3	1,300	3	1,078
指定管理者自主事業	コンサート等	61	10,082	51	8,955
	講 座	357	13,968	334	11,984
合 計		439	37,511	406	34,730

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり

【アクションプラン掲載事業】

事業名	放課後子ども教室の運営	
事業の概要	地域学校協働活動として放課後や長期休業中等において、こどもたちが安心・安全に過ごし、多様な体験・活動ができる居場所をつくる。	
目標	目標名	目標値
	放課後子ども教室設置数	10校
取組設定	・放課後子ども教室の設置運営	
実績・成果	市内10校において放課後の子どもの居場所として開催。のべ参加人数 6,189人	
評価	A	新たに1校で放課後子ども教室が開かれ、子どもの多様な体験・活動の場が広がった。
担当課	教育指導課	

事業名	コミュニティ・スクールの推進	
事業の概要	学校と地域住民等が力を合わせて子どもたちの成長を育むため、地域住民等が学校運営に取り組むことが可能となる学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域とともにある、地域に開かれた学校を推進する。地域の現実に即した当事者能力を子どもたちに育むため、学校運営協議会によるカリキュラムの提案も歓迎する。	
目標	目標名	目標値
	学校運営協議会の開催回数	57回
取組設定	・学校運営協議会の開催	
実績・成果	学校運営協議会を市内全小中学校に設置し、カリキュラムの提案も歓迎するという方針で協議を行った。 /学校運営協議会設置校数：19校、学校運営協議会の開催回数：54回	
評価	A	・市内全小中学校に学校運営協議会を設置し、本格的に地域学校協働活動を推進している。 ・コミュニティ・スクール連絡協議会を開催し、3校が1年間の取組を発表し交流を行った。
担当課	教育指導課・教育総務課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	幼稚園コミュニティ・スクールの充実	
事業の概要	市立幼稚園コミュニティ・スクールにおいて、園と保護者、地域コミュニティが連携してこどものための取組を進める。なばた幼稚園・俵口幼稚園に学校運営協議会を設置しているが、園児数の減少が著しいあすか野幼稚園においても設置を行う。また、その他の園においても、園児数やニーズに応じて、設置を検討する。	
目標	目標名	目標値
	学校運営協議会設置園数	3園
取組設定	・俵口幼稚園・なばた幼稚園に加え、あすか野幼稚園に学校運営協議会設置	
実績・成果	令和6年度にあすか野幼稚園にて立て上げることができた。	
評価	A	地域も巻き込み、関わってもらうことで、こどもたちの豊かな体験につながっている。
担当課	こども園準備室	

事業名	高齢者の学びを「行動」につなげられる仕組みづくり	
事業の概要	寿大学で学んだ高齢者が自身の学びの成果やこれまでの人生経験を生かしてまちづくりの担い手として活躍する機会を増やしていけるよう支援を行う。 具体的には、「寿生駒連絡協議会」(気らくネット)が市内の学校内の菜園や花壇整備を行ったり、オリジナルの紙芝居を学校や地域の老人会等で披露するなどの社会貢献活動を市内各所で展開しているが、これらの活動と学校や地域団体等とのコーディネートを進めることで、連携の拡大や新たな取組の実施につなげる。	
目標	目標名	目標値
	気らくネットによる取組の新規実施数	1件
取組設定	・気らくネットによる地域での社会貢献活動の支援	
実績・成果	・令和6年10月に開催された「地域共生社会推進サミット in いこま」への参加協力。 ・クラブ活動として「フードドライブクラブ」を立ち上げた。取り入れ、食品等の提供を進めていくなど、社会貢献につながる活動を継続的に実施している。	
評価	A	サミットへの参加を通じて共生社会や地域での活動について本市のまちづくりについて理解を深めるとともに、フードドライブを常設の活動とし、継続的に社会貢献二通流活動を実施している。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援	
事業の概要	子育ての不安解消や地域でのつながりづくりなどを目的に、地域で子育て支援等に関わる市民との協働により立ち上げた生駒市家庭教育支援チーム「たけのこ」を中心に、学校園などとの連携のもと親子や保護者を対象とした交流事業や家庭教育に関する情報発信などに取り組む。	
目標	目標名	目標値
	「たけのこ」によるイベント等取組実施数	6件
取組設定	・地域や学校園と連携した交流行事「たけのこ ふれ愛」イベントの開催 ・家庭教育支援チームに関する啓発 ・市 HP での情報発信	
実績・成果	・家庭教育の推進を目的に、交流イベントを 5 回開催した。 生駒小 9/26, 壺分幼稚園 1/29, 生駒小② 2/13, 2/18 ピュア保育園 3/10 ・研修会を実施 先進地視察研修 2 回(天理市、交野市) ・たけのこ通信を 2 回発行した ・南地区でのチーム活動の啓発物品配布 計 8 件	
評価	A	チームの取組みが広く周知されてきた結果、学校園からイベントの依頼を受けることが増え、目標値を上回る実績を残すことができた
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「人を通して本を知る」「本を通して人を知る」をキャッチフレーズとするビブリオバトル全国大会の開催	
事業の概要	年齢や地域の枠を超えたビブリオバトルの全国大会を開催し、市民の読書推進とともに、本を通して繋がる全国的なネットワークを作り出す。	
目標	目標名	目標値
	ビブリオバトル全国大会の参加者数	300人
取組設定	・ビブリオバトル全国大会inいこまを開催	
実績・成果	オンライン予選会 4回実施 27人発表 159人観戦 オフライン予選会 1回実施 6人発表 20人観戦 決勝 5人発表 387人観戦 ゲストに当市出身の人気作家森見登美彦氏を迎え、10周年記念イベントも行った。またオンラインで発表者と前夜祭を開催した。	
評価	A	全国大会も10周年を迎えることができ、このイベントが全国的に有名になってきている。読書を通じて全国の様々な団体とネットワークが構築され、イベント内容も充実し、市民の読書推進にも寄与した。
担当課	図書館	

事業名	こども読書活動における家庭・地域・学校の連携	
事業の概要	家庭、地域、学校から様々な人が集まり、こどもの読書活動推進に関する情報共有を行い、学び合ったことを、それぞれの団体や地域へ持ち帰り、課題解決や活動の充実を図る。	
目標	目標名	目標値
	トライ！生駒子ども読書会議の開催回数	3回
取組設定	・「トライ！生駒子ども読書会議」の開催 第1回目：外部講師による講演会 第2・3回目：事例発表、ワークショップ	
実績・成果	3回開催。延べ164人の参加者。各回にゲストを招き、ワークショップにおいて意見交換、情報共有を行った。	
評価	A	参加者同士がグループ討議を行い学びあうことにより、各自の活動の実践に役立てた。
担当課	図書館	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業	
事業の概要	誰もが身近な地域で気軽にスポーツ活動が行えるよう、市内の総合型地域スポーツクラブの活動を支援する。また、学校部活動の地域移行を見据えた「新たな地域クラブ活動」の実施団体として、学校等との連携支援を行うなど体制強化に向けたクラブ支援を行う。	
目標	目標名	目標値
	市内クラブの会員数	1,050 人
取組設定	・各クラブに対する活動支援 ・新たな地域クラブ活動実施団体としての体制強化支援	
実績・成果	・広報掲載、チラシ配布等による各クラブの周知啓発活動支援 ・生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催（2回） ・会員数：1,042 人	
評価	A	各クラブが実施する事業等についての周知啓発や、各クラブ間の情報交換を行うことにより、会員数の増加や各クラブの組織体制の強化に繋がった。 また、学校部活動の地域移行に伴う国の実証事業を受託するとともに、新たな地域クラブ活動の推進を見据え、市内総合型クラブが実施主体となる仕組みづくりを行った。
担当課	スポーツ振興課	

【その他事業】

事業名	スポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営	
事業の概要	審議会を通じて専門家や市民から市のスポーツ施策に関する意見を聴くとともに、地域住民であるスポーツ推進委員と協働してスポーツの普及を図る。	
実績・成果	スポーツ推進審議会 開催回数：2回 スポーツ推進委員 会議：2回、研修会等：10回、実技指導：11回 その他地域での実技指導	
評価	A	スポーツ推進審議会では、「生駒市スポーツ推進計画【改訂版】」の各施策の進捗状況や検証等を行うとともに新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針（案）を検討した。 スポーツ推進委員では、いこまスポーツの日や各種障がい者スポーツ支援事業等での実技指導により、更なる地域スポーツ推進を支援した。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
令和6年度は、様々なスポーツ事業を実施することができ、市民がスポーツに夢や憧れを抱ける機会やスポーツを始めるきっかけ、スポーツに親しんでもらえる機会を創出することができた。特に、障がい児用運動プログラムをはじめとする障がい者対象事業は多くの参加者から高評価をいただいているため、今後は継続してスポーツにふれあっていただけ環境とするため、関係団体との更なる連携や地域の協力が必要と感じている。	「第2期生駒市スポーツ推進計画」に掲げる「スポーツがつむぐ いこまの“わ”～“笑顔”と“元気”で1.2.3.～の実現に向け市民ニーズや参加者等の意見を取り入れながら引き続き取り組みを推進する。
学校部活動の地域移行や地域連携については、国の実証事業を受託し、市スポーツ協会や市内総合型地域スポーツクラブ等の実施主体と連携し取り組みを進めているが、今後は国や県が目標として掲げている令和8年度までの地域移行を目指し、関係団体等との調整を図りながら更に進めていく必要がある。	休日の学校部活動の地域移行を見据え、将来にわたりスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむ機会を確保するため、教育委員会内の教育指導課、スポーツ振興課、学校現場の三者で必要な連携を図り、生徒や児童にとって持続可能で多様な環境を構築する。
図書館だけでなく、様々な団体や市民と協働して、より多くの市民に本を手渡していく必要がある。	これまでの活動を継続すると同時に、より多くの市民が読書に関心を持ってもらうようなPR活動や市民ニーズに合ったテーマ設定などを行っていく。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

図書館蔵書冊数等

(単位：冊、人)

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
蔵書冊数	649,939	651,459	646,210	649,712
貸出冊数	1,102,051	1,148,729	1,195,065	1,263,753
貸出人数	330,494	341,771	352,645	358,627
利用券登録者数	44,412	41,302	44,357	47,161

スポーツ、レクリエーション活動の実績

(単位：人)

事業名	令和6年度	令和5年度	事業名	令和6年度	令和5年度
体育大会	5,034	4,909	体育館無料開放	1,277	1,438
ファミリースポーツの集い	廃止	72	学校体育施設開放	2,786	2,808
IKOMA マラソンチャンピオンシップ	295	317	生駒ふれあい市民マラソン	中止	中止
スポーツ教室	4,005	3,721	チャリロゲいこま(R5) いこま自転車つーりんぐ(R6)	61	49

社会体育施設の利用実績

(単位：人)

施設名	令和6年度	令和5年度	施設名	令和6年度	令和5年度
生駒北スポーツセンター	129,971	128,860	滝寺公園	151,522	140,553
イモ山公園	51,977	54,538	むかはやま公園	38,127	38,665
北大和	81,825	84,599	小平尾南	33,440	32,849
総合公園	136,953	132,698	井出山	178,383	181,493
山麓テニス	22,877	22,168	合 計	825,075	816,423

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

基本方針3 多様な学びを支える環境づくりのために

1 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備

【アクションプラン掲載事業】

事業名	教職員のウェルビーイングを実現する働き方改革	
事業の概要	教職員が健康でいきいきとやりがいをもって働ける環境整備を行い、教職員が授業や教材研究等に集中し、ゆとりをもって教育活動に取り組める時間の拡充を図る。	
目標	目標名	目標値
	月80時間超の時間外労働者数	50人
取組設定	・スクールサポートスタッフの全校配置 ・部活動の段階的な地域移行 ・働き方改革に取り組むプロジェクトチームの設置	
実績・成果	・スクールサポートスタッフを全校に配置した。 ・働き方改革に取り組むプロジェクトチームについて、次年度の設置に向けて検討を行った。 年度末における月80時間超の時間外労働者数は51人でほぼ目標を達成した。	
評価	A	・スクールサポートスタッフを配置することで、教職員が教育活動に取り組むことができた。 ・目標値にはわずかに届いていないが、働き方改革の趣旨は浸透してきた。働き方改革は、単年度で完結する課題ではないため、継続的に様々な取り組みを進めていく。
担当課	教育総務課・教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学校屋内運動場空調設備整備事業	
事業の概要	各学校の屋内運動場には、防災物品として大型冷風扇を整備しており、災害時以外も活用し熱中症対策を行っている。 しかし、近年の夏期の気温上昇によって屋内運動場での活動による熱中症リスクが上がっていることから、屋内運動場に空調設備を整備してリスク軽減を図る。また、避難所として使用することとなった場合でも、空調設備が整っていることによって避難者の体調管理に資することができる。	
目標	学校施設における熱中症予防のための空調設備について完了させる。	
取組設定	・実施設計（小学校10校、中学校6校、小中学校1校）	
実績・成果	12月に実施設計を完了し、中学校分について補正予算措置を行い、前倒しで工事業者と契約を締結し、令和7年中に工事完了できるようにした。小学校においても、令和7年度予算措置を行った。	
評価	S	中学校を先行させ、小学校においても令和7年度末までに完了させる。
担当課	教育総務課	

事業名	認定教育者資格取得支援事業	
事業の概要	ICTを活用した授業を実践する教員の基礎スキル向上を支援するために、研修を通してGoogle認定教育者資格取得等を支援する。	
目標	目標名	目標値
	認定資格合格率	80%
取組設定	・春期・夏期休暇中に資格取得支援講座を実施	
実績・成果	夏期休業中に資格取得支援講座を実施。受講者13人うち13人が合格した。	
評価	S	Google認定教育者資格取得講座を、13人が受講し、受講期間を広く設定したことで受講者が勤務スケジュールと調整をとり学ぶことができ、目標値を大きく上回る100%が合格した。資格取得により、授業改善や校務DXの推進など、市内教員のICTスキルアップにつながった。
担当課	教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	先進校視察支援事業	
事業の概要	ミドルリーダー層以上の教員及び教育委員会事務局の指導主事が自分自身の教育観や授業観のアップデートに充てる時間を確保するために、教育委員会事務局主導で先進校視察を行う。	
目標	目標名	目標値
	視察参加人数	45人
取組設定	・先進校視察実施	
実績・成果	不登校支援や新しい授業づくり、生駒南小中学校整備事業の推進に資する先進地視察を企画し、延べ64人が視察を行った。	
評価	A	各地の先進的な取り組みを視察する機会を設け、実際に目で見て学べたことで、視察参加者の意識変革を促し、それぞれの事業において前向きな取り組みを行う土壌を整えた。
担当課	教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	講師不足対策	
事業の概要	ポスターを商業施設等に掲示して広く周知を図ることで、教員免許等を有する人材に「いこま教育・保育資格バンク」への登録を促す。また、「いこま教師塾」により講師希望者に研修を実施し、市内学校への勤務がスムーズに行えるように支援する。それらにより、定数内講師の不足の解消及び今後予想される講師不足の対策を行う。	
目標	目標名	目標値
	毎年度2月時点の講師不足数	4人
取組設定	・いこま教育・保育資格バンク ・いこま教師塾	
実績・成果	(いこま教育・保育資格バンクの設置) 教員免許や保育士資格を有する人材の発掘・登録を促進するため、市内の商業施設等でポスターを掲示し、広く周知を図った。その結果、年度内に230名が新たに登録した。 (いこま教師塾の実施) 講師希望者を対象とした研修として「いこま教師塾」を計5回開催し、計27名の参加があった。学校現場への不安を払拭しながら、実践的な指導力の向上を支援し、令和7年度の就労に繋げた。 令和6年度の2月(令和7年2月)時点での講師不足は1名であった。	
評価	S	全国的に講師不足が深刻化する中、生駒市は「いこま教育・保育資格バンク」の活用と「いこま教師塾」の実施を通じて、地域に眠る有資格者を実際の教育現場へつなぐ仕組みを構築した。結果として、講師の安定的な確保が実現し、年度当初における欠員ゼロという成果を収めた。また、本事業はメディアでも取り上げられ、文部科学省からのヒアリングを受け、中央教育審議会の部会でも紹介された。今後は登録者の維持・拡充と、研修の質的向上を通じた定着支援を目指す。
担当課	教育総務課・教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	「教頭の業務の再定義」を核とした学校の業務改善と教師の働き方改革施策	
事業の概要	授業改善を始めとする教育活動の改善に向けて、教職員の組織的な働き方改革を推進する。特に、学校運営の核であり、近年時間外労働が増大している教頭職の業務を再定義し、働き方改革を推進させる。 モデル校となる学校を小中学校からそれぞれ選定し、モデル校の教頭らにコンサルタントからの研修や助言の機会を提供し、伴走型支援をする。また、教頭をリーダーシップとする組織開発の実践の効果を、組織変革プロセスを用いた学校組織診断によって評価・測定し、継続的な改善を図る。	
目標	目標名	目標値
	月80時間超の時間外労働者数	50人
取組設定	・教頭を対象とした、伴走型の働き方改革支援（研修・コンサルティング）の実施（4校） ・組織変革プロセス指標を用いた学校組織診断の実施（4校×2回） ・保護者宛文書等の一体的なデジタル化推進 ・教頭の働き方改革PTの発足	
実績・成果	令和6年度は、教頭を対象とした働き方改革研修を計20回実施した。外部コンサルタントによる講義・対話ワークショップを通じて、業務改善の視点やマネジメントスキルの向上を図った。一方で、学校組織診断および教頭の働き方改革PTの発足については、準備状況や学校現場との調整を踏まえ、令和7年度以降の実施とした。 また、保護者宛て文書等のデジタル化については、学校連絡サービス「すぐーる」を活用した運用を進めた。 年度末における月80時間超の時間外労働者数は51人であり、目標としていた50人以下をわずかに上回った。	
評価	B	教頭の組織開発・マネジメント能力向上に特化した研修を継続的に実施したことは、学校の中核を担う立場からの業務改善の意識醸成に一定の効果をもたらした。一方で、当初予定していた組織診断やPT設置など、全体的な制度設計と効果測定に関する取組は次年度以降への繰越となったため、今後は計画の実行段階への着実な移行と、現場への実効的な波及を意識した推進に注力し、学校の業務と働き方の分析も進める。
担当課	教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

【その他事業】

事業名	市立幼稚園における預かり保育の実施	
事業の概要	子育て支援の一環として、預かり保育・長時間預かり保育を実施する。	
実績・成果	市内全幼稚園において預かり保育を実施している。 のべ 27,640 人が利用	
評価	A	令和5年9月から預かり保育時間を17時まで延長した結果、利用数が増加、目標を大きく上回る利用があった
担当課	幼保こども園課	

事業名	特別支援教育の充実	
事業の概要	4、5 歳児クラスに特別支援介助講師を配置する。	
実績・成果	令和 6 年度は 24 名の加配を行い、対応した	
評価	A	一人ひとりの特性に応じてきめ細かい支援を行うことができた。
担当課	幼保こども園課	

事業名	積極的な情報公開と学校評価の実施	
事業の概要	学校評価を実施・公表し、改善点を明確にするなど、更なる学校経営の充実を図るとともに、ホームページでの情報掲載など、積極的な情報公開による開かれた学校づくりを推進する。	
実績・成果	・3 校で 1 日学校訪問を実施した。 ・学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施した。	
評価	A	学校評価総括表を活用した学校評価を全校で実施し、加えてホームページやX(旧 Twitter)、学校だよりで情報を公開した。
担当課	教育指導課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
教員の働き方改革を進めるためには、年度ごとではなく連続した取り組みを進めていく必要がある。	働き方改革に焦点を当てた取り組みだけではなく、その他の取り組みによって副次的に改善が行われることも多いことから、業務横断的に働き方改革を推進する視点を共有していく。
「今後の生駒市立幼稚園のあり方について」の見込み以上に幼稚園の園児数が著しく減少している。	「生駒市立幼稚園の再編にかかる方向性について」の再編基準を下回る園については、今後の人口動態や保護者ニーズも踏まえ、園毎の方針策定を行う。
幼稚園の三期休業中の預かり保育や、預かり保育時間延長を継続できる人員確保が必要である。	これまでの取組のほか、人材確保につながる新たな取組について検討し実施する。
職員の資質向上のための研修機会の確保と経験年数に応じた研修内容を今後も検討していく必要がある。	令和 6 年度の研修内容も踏まえ、内容を検討するとともに引き続き保育の質の向上に努める。

< 参考データ >

市立幼稚園園児数（令和 6.5.1 時点）（単位：人）

3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
123	185	247	555

市立保育所園児数（令和 6.5.1 時点）（単位：人）

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児	合計
23	65	90	140	150	153	621

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

2 こどもたちの新たな学びを創出する環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業名	小中学校施設の計画的な大規模改修事業	
事業の概要	建設から 40 年程度経過し、老朽化が進んでいる小中学校の大規模改修を順次計画的に実施する。	
目標	長寿命化を図り、主体的に物事に取り組むことができ、時代の変化にも柔軟に対応できるように改修する。	
取組設定	・大規模改修に向けた基本設計を基に実施設計（上中）	
実績・成果	基本設計を基に上中学校長寿命化改修工事実施設計を策定	
評価	B	学校とも連携し、概ね完了したが、当初想定していなかった設計箇所があることが判明し、再調整する必要がある、年度内に完了することができなかった。
担当課	教育総務課	

事業名	生駒南小学校・中学校整備事業	
事業の概要	生駒南小学校・中学校は、建築から約50年が経過しており、耐震改修やトイレ改修などの一定の改修工事は行っているものの老朽化が著しい状況である。 学校施設はこどもたちが日常生活を送る場であるだけでなく、災害時の避難所となるものでもあるため、速やかに対策を行う必要がある。	
目標	主体的に物事に取り組むことができ、時代の変化にも柔軟に対応できる、新しい視点を取り入れた施設にする。	
取組設定	・境界調査及び境界確定（令和 5 年度繰越） ・測量 ・基本計画策定 ・ワークショップ	
実績・成果	・境界確定及び測量作業の実施 ・基本計画の策定 ・ワークショップの実施 ワークショップを2回（保護者向け、地域向け）、説明会を3回、相談会を6回実施し、保護者や地域へ向けて丁寧に周知を行った。	
評価	A	地権者との境界確定作業を完了し、また、基本計画についても、関係者からの意見聴取も含め策定完了した。 地域へ足を運んだ説明会を複数行ったほか、予約者と個別に直接話をする相談会を設けることで、生駒南小学校・中学校整備事業への理解を深めた。
担当課	教育総務課・教育政策室	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学校給食センター整備改修工事	
事業の概要	学校給食センターの経年劣化に伴う施設設備の更新改良、維持保全が必要である。令和2年度から継続的に進めているところで、令和5年度に洗浄室、コンテナ室の床を改修し、令和6年度に調理室、下処理室の床の改修を実施する。	
目標	施設設備の更新改修工事により、安心・安全な学校給食を継続して提供する。	
取組設定	・調理室、下処理室床改修工事 ・厨房機器移設 ・施工監理	
実績・成果	令和3年度から夏休み期間等を利用し、給食の提供を中止することなく、継続して施設・設備の更新・改修を実施し、令和6年度に一連の改修工事が完了した。	
評価	A	工事完了により、安心・安全な学校給食の提供を継続して実施することが可能となった。
担当課	学校給食センター	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	これからの時代の学校図書館のあり方創造事業	
事業の概要	デジタル化が加速する社会の中で、一人一台端末導入による調べ学習の変化や、新学習指導要領に基づく「主体的・対話的で深い学び」の授業改善による児童生徒の探究学習にあたり、学校図書館の新しいあり方を模索し、生駒市モデルを創造していく。 学校図書館は、文科省の学校図書館ガイドラインに基づき、児童生徒の興味・関心等に応じて、自発的・主体的に読書や学習を行う場であるとともに、読書等を介して創造的な活動を行う場とするための選書や展示方法、読書スペースなどの空間づくり、イベント等を学校司書とともに考え、こどもたちが自発的・主体的に学べる環境づくりを目指す。	
目標	目標名	目標値
	実験的な取組に対する実施校の数	2校
取組設定	・学校司書先進校視察 ・学校図書室の展示・空間づくりの工夫、充実	
実績・成果	市内の学校司書を対象に、先進的な取り組みを実施している自治体への視察と研修を実施した。また、学校図書室を利用して学びを深めるための環境づくりを3校で行った。	
評価	A	学校司書の先進地視察により市外の学校司書との交流を図ることで、新しい視点を得て、見識を広げた。
担当課	教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	教育系ネットワーク更新	
事業の概要	セキュリティを担保しながら校務系ネットワークと学習系ネットワークを統合することで、アクセス場所（校内外）を問わず、安全な校務・学習システムの利用を可能とする。ネットワーク更新により、教職員の執務環境の向上を図ることで、児童・生徒と向き合う時間の創出や授業準備の時間を確保し、効率的かつ効果的な教育活動を可能とする。 また、ゼロトラスト型セキュリティネットワークの構築と同時に、保守・運用方針、教育委員会のセキュリティポリシー、施設開放時のネットワーク環境等も同時に見直すことにより学校現場が抱える課題の解決も図る。	
目標	令和6年度中に新しいネットワークを構築し、令和7年度から運用を行う。本事業により学校のネットワーク環境を改善することで教職員の作業効率を上げ、教育活動に充当する時間を創出する。	
取組設定	・構築及び保守業者の選定に係るプロポーザルの実施 ・新しい環境の構築、テスト運用 ・セキュリティポリシーの更新	
実績・成果	新しいネットワークの構築及び保守業者の選定を、令和6年7月までにプロポーザル審査を実施して行い、令和7年4月からの運用に向けて構築を進めた。構築期間中に実施したテスト運用により明らかになった運用上の課題を解決しながら、滞りなく構築を終えた。また、文部科学省のガイドラインを参考に、教育情報セキュリティポリシーの策定も行った。	
評価	S	教職員の執務環境の向上と学校現場が抱える課題に対し、新しいネットワーク環境や保守業務の体制を整えた。
担当課	教育総務課・教育指導課・教育政策室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	保育料の段階的な無償化	
事業の概要	0～2 歳児のうち第 2 子の保育料を半額から無償にする(きょうだいカウント方法の見直し含む)。また、国等に対して、0～2 歳児の保育料の完全無償化に向けた要望等を行う。	
目標	多子世帯の負担軽減により少子化に歯止めをかける。	
取組設定	・第 2 子無償化実施 ・国へ保育料完全無償化に向けた要望 ・県へ第 2 子無償化に係る補助を要望	
実績・成果	0歳～2歳の保育について国の制度では第3子以降無償、第2子半額となっていることから、市単独の取組として令和6年度第2子無償化を実施した。	
評価	A	市独自できょうだいのカウントを見直し、第2子無償化を行うことができた。また、令和7年度以降も継続するが、市の単独財源で実施しているため、今後も引き続き国に対して、国の制度で第2子無償化を実現するよう要望をしていく予定である。
担当課	幼保こども園課	

事業名	待機児童の解消に向けた取組	
事業の概要	保育士を確保し、児童の受け入れ態勢を整えるため、「資格をいかそう！相談会」、「保育園、こども園見学ツアー」、「職場体験」や保育コンシェルジュによる相談事業を継続して実施する。また、私立の短時間保育士、非正規常勤保育士及び常勤保育士への助成等を継続する。生駒駅周辺の保育施設や分園等を整備する。	
目標	目標名	目標値
	待機児童数(各年度 4 月 1 日現在)	0 人
取組設定	・「資格をいかそう！相談会」等実施 ・処遇改善給付金(短時間勤務保育士) ・保育士サポート手当(新規採用の非正規常勤保育士) ・生駒駅周辺の保育施設・分園等の公募	
実績・成果	・資格をいかそう相談会、職場体験等の取組を実施して、11人(うち公立園保育士4人)の採用につながった。 ・処遇改善給付金(短時間勤務保育士)、保育士サポート手当(新規採用の非正規常勤保育士)を実施 ・公募型プロポーザルを実施、令和 7 年 4 月生駒せいかナーサリー開園	
評価	B	実績・成果のとおり実施し、保育士確保については一定の成果があったが、令和 7 年 4 月 1 日時点で待機児童数は 19 名となっており、目標達成には至っていない。
担当課	幼保こども園課・こども園準備室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	市立保育所の老朽化施設の更新	
事業の概要	老朽化した市立保育所施設の長寿命化や認定こども園としての更新を計画的に進める。また、改修に合わせ、リズム室を保育室として運営している、中保育園・ひがし保育園の定員の適正化を図る。	
目標	目標名	目標値
	更新施設数	0 園
取組設定	・耐力度調査(中保育園)	
実績・成果	令和 6 年度耐力度調査を実施、コンクリートについては問題ないとのことであったため、引き続き補修・改修を続けながら運用する。	
評価	B	中保育園の状態について確認を行い、安全性が確認できた。一方で長寿命化や認定こども園としての更新はできていないことから、目標の達成には至っていない。
担当課	こども園準備室	

事業名	壱分幼稚園のこども園化	
事業の概要	壱分幼稚園の認定こども園整備に関する基本計画に沿って、公私連携幼保連携型認定こども園の整備を進める。施設の設置・運営主体については、民間事業者から公募を行う。壱分幼稚園園舎は市が解体し、民間事業者が新園舎を建築する。	
目標	保護者の高まるニーズや多様化する就労形態及び教育・保育のさらなる質の向上を図る。	
取組設定	・保護者・地域への説明・協議 ・公募型プロポーザルによる事業者選定、協定締結 ・既存園舎の解体工事实施設設計(アスベスト調査含む)	
実績・成果	令和6年度に認定こども園壱分こども園整備運営事業者(公私連携法人)を選定した。また、壱分幼稚園園舎解体工事の設計を行った。	
評価	B	令和 7 年度から解体工事がはじまり、新園舎の建設も開始すること、壱分幼稚園児童のなばた幼稚園での合同保育もこれからであるため、確実に前進しているものの、認定こども園の開園はまだ先であるため、目標の達成には至っていない。
担当課	こども園準備室	

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	学童保育の充実	
事業の概要	増加する学童保育需要に対応するため、生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所の環境整備、指導員確保などによる体制づくりに取組むとともに、新たなニーズに応えるため、民間事業者による学童保育事業を促進する。	
目標	目標名	目標値
	民間学童保育所数	7か所
取組設定	・民間事業者参入を図るための公募 ・運営協議会に対する支援 ・民間事業者に対する支援	
実績・成果	・民間学童保育所数：7か所 民間事業者からの申し出、交渉により、民間学童保育所を新たに1つ誘致することができた。 ・学童保育所の環境整備を行うとともに、運営協議会及び民間学童保育所に対し、助成金を交付した。	
評価	A	・学童保育需要が増加している地域において、小学校内スペースを活用した分散保育の実施や、民間学童保育所の誘致により定員を増加させたことで、希望者全員が入所することができた
担当課	児童総務課	

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
校舎等の老朽化が進んでいるため、費用面や工期について計画的に進めていく必要がある。	子どもたちの学習環境を保障しつつ、市内での連携を図り、適宜計画を見直していく。
新たな教育系ネットワークを学校現場で円滑に運用し、ICTを活用した授業改善や働き方改革に有効活用していく必要がある。	ICT機器を学校現場で自在に活用できるように、管理職や情報担当職員を中心に研修を行っていく。
生駒市学童保育運営協議会が運営する学童保育所入所を希望する傾向が強い。	民間学童保育所への入所が増えるよう送迎支援や魅力ある保育内容など事業者と協働して取組を進める。

【評価基準】

- S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。
A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した
B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない
C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

< 参考データ >

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設の在籍児童数

(令和 6.10.1 時点) (単位: 人)

小学校名	学童名	児童数	小学校名	学童名	児童数
生駒北小	生駒北学童	22	桜ヶ丘小	桜ヶ丘 1 学童	63
鹿ノ台小	鹿ノ台 1 学童	82		桜ヶ丘 2 学童	56
	鹿ノ台 2 学童	69		桜ヶ丘 3 学童	60
真弓小	真弓 1 学童	52	生駒小	生駒 1 学童	87
	真弓 2 学童	94		生駒 2 学童	94
あすか野小	あすか野 1 学童	62		生駒 3 学童	88
	あすか野 2 学童	64	生駒東小	生駒東 1 学童	57
	あすか野 3 学童	68		生駒東 2 学童	58
	あすか野 4 学童	41	壱分小	壱分 1 学童	72
生駒台小	生駒台 1 学童	120		壱分 2 学童	50
	生駒台 2 学童	77		壱分 3 学童	65
俵口小	俵口 1 学童	48	生駒南小	生駒南 A 学童	37
	俵口 2 学童	50		生駒南 B 学童	53
			生駒南第二小	生駒南第二学童	50
			計		1,739

学校給食の実施状況

(単位: 回、円)

	実施回数	給食費(月額)
小学校	185	4,400
中学校	172	4,800

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備

【アクションプラン掲載事業】

事業名	困難を抱える子ども・若者に対する支援の充実	
事業の概要	子ども・若者総合相談窓口「ユースネットいこま」を拠点として、様々な困難を抱える子ども・若者が自立した社会生活を送れるよう、「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の有効活用及び関係機関との連携のもと必要な支援を行う。 また、「重層的支援整備体制事業」等とも連携しながら、できるだけ多くの不登校・ひきこもりの当事者や家族が相談支援につながるようにしていく。	
目標	目標名	目標値
	ユースネットいこまの新規相談者数	50人
取組設定	・ユースネットいこまにおける相談支援 ・「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」の運営	
実績・成果	・ユースネットいこまでの実績 相談総件数：1,036件 総利用者数：406人 利用者実人数：93人 新規相談者数：45人 ・居場所づくり事業 計55回 参加実人数116人 ・支援を受けて進路を決定するに至った利用者数：17人	
評価	B	ケースによっては重層的支援整備体制事業関係部署とも連携して個々のケースの相談・支援にあたることで、相談件数、相談者数、進路決定者数、新規相談者数等の実績は昨年度を上回った。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	図書館リニューアル事業	
事業の概要	図書館本館は昭和 62 年に開館し、37 年目を迎えている。開館当時は貸出を中心とし、より多くの資料を展示することが重要であったが、現在は市民の活動する場、まちづくりの拠点としての図書館機能が求められるようになってきている。市民の求める新しい図書館となるよう、リニューアル事業を行う。	
目標	令和 5 年度実施のワークショップでリニューアルの方向性を活動と交流ができる場であると同時に身近で落ち着く場となることと決定した。それに加えて図書館のデジタルサービスの充実も視野に入れた実施設計を行う。	
取組設定	・リニューアル実施設計委託	
実績・成果	プロポーザルを実施し、設計業者を決定。リニューアル実施設計を完了した。	
評価	A	ワークショップで決定したリニューアルの方針に沿った内容の実施設計図ができた。
担当課	図書館	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	『生駒市史』編さん事業	
事業の概要	『生駒市史』編さん事業は、昭和 60 年に最終巻を発刊し終えたが、その後 30 年間に行なわれた発掘調査や古文書調査等の新たな成果が蓄積されている。加えて、生駒市を取り巻く状況は大きく変化してきており、市制 50 周年を記念して新たな「生駒市史」を編さんする意義は大きい。優れた専門性を備えた市内在住研究者や学校関係者、ボランティアの参画により「生駒市史」の編さんを行う。	
目標	まちの歩みを知ることによってまちへの愛着を醸成し、まちづくりに参画する人を増やす。	
取組設定	・編さん委員会開催 ・補充調査 ・史料集2冊発刊 ・記念講演会 ・地域学習イベント	
実績・成果	・編さん委員会開催 1 回開催 ・補充調査実施 ・史料集2冊発刊 ・記念講演会 1 回開催 123人参加 ・地域学習イベント 4回開催(うち1回フィールドワーク) 延べ124人参加	
評価	A	建造物、寺院史料・美術品ほか各分野の史資料調査を実施するとともに、編さん委員会、分科会、編集会議を開催し、各分野の記述方針等の情報を共有した。またボランティアの参画による史料の収集、翻刻等の編さん作業を実施した。また、調査研究の成果を地域学習イベント・講演会・ニューズレターなどを通じて伝え、事業PRに努めた。さらに、生駒の近世・近代の史料集2冊を刊行した。
担当課	図書館	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	市史編さん収集資料活用事業「いこま歴史アーカイブ」	
事業の概要	市史編さん作業で収集した資料のうち、書籍の基礎となる貴重かつ活用可能な資料を選択し、令和7年度以降『市史』を発刊公開して以降、史料を随時公開し、活用を図る。	
目標	まちの歩みを知ることによってまちへの愛着を醸成し、市のPRにつなげる。	
取組設定	・史料の収集・撮影	
実績・成果	・史料の収集・撮影 ・主な史料の選定	
評価	A	史料の収集を行い、各分科会において選定方針を設け、アーカイブに適する史料を選定した。
担当課	図書館	

事業名	生涯学習施設整備事業	
事業の概要	誰もが安心・安全に利用できる施設にするため、老朽化が進んでいる市内生涯学習施設を適切に維持管理し、計画的に改修を進める。	
目標	市民の継続した生涯学習活動を担保し、施設利用者の安全を確保するために計画的に改修を行う。	
取組設定	・北コミ空調工事(1期) ・南コミ空調設計 ・南コミ駐車場整備設計・工事 ・コミセンLED改修(2階) ・生駒セイセイビル非常用予備発電装置制御部品更新工事	
実績・成果	・北コミ空調工事(1期) 完了 ・南コミ空調設計 繰越 ・南コミ駐車場整備設計 完了 ・南コミ駐車場整備工事 繰越 ・コミセンLED改修(2階) 完了 ・生駒セイセイビル非常用予備発電装置制御部品更新工事 完了	
評価	A	一部事業については、入札複数回不落や関係者との協議等に時間を要し、次年度へ繰越したものの、その他LED化改修や空調設備更新等を計画的に実施することで、市民にとって、文化・生涯学習の拠点施設を継続的に安心・安全に利用できるような施設の環境整備を行った。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	やまびこホール廃止関連事業	
事業の概要	個別施設計画に基づき、令和6年3月31日をもって生涯学習施設やまびこホールを廃止し、原状回復したうえで賃貸人に返却する。 建物や屋外トイレ等の一式を解体・撤去するとともに、防災行政無線を移設し、耐震性貯水槽を別用地へ新設する。	
目標	本市をとりまく状況をふまえ、公共施設等の適正配置等について定められた「生駒市公共施設マネジメント推進計画」及び「生駒市個別施設計画」に基づき事業を進めるうえで、地域住民の安全確保に努める。	
取組設定	【解体前準備】 ・浄化槽消毒・清掃汲み取り 【解体・撤去】 ・建物、屋外トイレ、浄化槽、耐震性貯水槽 ・防球フェンス 他	
実績・成果	浄化槽消毒・清掃汲み取り、石綿調査 完了 建物、屋外トイレ、浄化槽、耐震性貯水槽等の解体工事 完了	
評価	A	解体工事については、解体前から地元住民との調整をはじめ、地権者や関係部署、解体工事業者との立ち合いを含めた協議を重ね、工期内に無事に終えることができた。また、他の業務においても年度内に完了することができた。
担当課	スポーツ振興課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	体育施設整備事業	
事業の概要	子どもから高齢者、障がい者まで誰もが安心・安全に利用できる施設とするため、トイレの洋式化を進めるとともに、老朽化が進んでいる市内体育施設を適切に維持管理し、利用者の安心と安全を確保する。また、各スポーツ施設の整備が必要となる時期や整備内容、長寿命化を含む整備経費を明らかにし、スポーツ施設の適正配置など今後の市スポーツ施設の全体的なあり方を検討するため、スポーツ施設整備等に伴う調査を行う。	
目標	市民の継続したスポーツ活動を担保し、施設利用者の安全を確保するために計画的に改修を行う。	
取組設定	・北大和体育館トイレ改修工事 ・市民体育館受水槽更新工事 ・生駒北 S.C.管理棟屋上防水改修工事 ・スポーツ施設整備等に伴う調査業務 ・北大和体育館非構造部材及び照明 LED 改修【令和 5 年度補正（繰越分）】	
実績・成果	・北大和体育館トイレ改修工事 完了 ・市民体育館受水槽更新工事 完了 ・生駒北 S.C.管理棟屋上防水改修工事 完了 ・スポーツ施設整備等に伴う調査業務 完了 ・北大和体育館非構造部材及び照明 LED 改修【令和 5 年度補正（繰越分）】 完了	
評価	A	予定していた工事等を実施し、災害時には避難所となる施設の環境整備を行った。
担当課	スポーツ振興課	

【その他事業】

事業名	生駒ふるさとミュージアム管理運営	
事業の概要	市の歴史文化の普及のため、生駒ふるさとミュージアムの指定管理者と連携して、適切に管理運営する。	
実績・成果	生駒ふるさとミュージアムの来館者数(年間):7,512人	
評価	A	ふるさとミュージアム指定管理者の企画による特別展示等の開催により、初めての来館者を含む多数の観覧があり、本市の歴史文化の発信とともにふるさとミュージアムの認知度を高めた。 また、新たに親子向け歴史講座を開催したほか、引き続き実施している「勾玉体験」にも多数の参加を得るなど、子どもだけでなく子育て世代の来館者増にもつながった。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

事業名	文化芸術事業	
事業の概要	市民の文化芸術活動を活発化するため、成果発表会の場の提供や指定管理者の自主事業の実施、文化芸術団体との連携などを推進する。	
実績・成果	生涯学習施設で行われる芸術文化活動の参加者数：23,543人	
評価	A	関係団体や指定管理者等と連携しながら積極的に事業実施に取り組み、新しい募集枠を創設するなど、新たな参画者を増やすことができた。
担当課	生涯学習課	

事業名	文化財保護と歴史文化の普及	
事業の概要	市の歴史の普及を図り、郷土愛を醸成するとともに、市の貴重な文化財保護を行う。	
実績・成果	歴史文化系講座聴講者数：489人	
評価	A	生駒ふるさとミュージアムにおいて本市の文化財や歴史をテーマにした企画展や特別展、各種講座や講演会を行うほか、市内小学校への出前授業にも積極的に取り組み、幅広い世代の多くの市民に郷土の歴史文化の普及を進めた。
担当課	生涯学習課	

【評価基準】

S 目標を上回る成果、効果を得ることができた。

A 取組完了、実施済み又は十分な効果が得られ目標を達成した

B 一定の効果が得られたものの目標の達成には至っていない

C 未着手又は十分な効果が上げられず目標に達していない

評価による課題	評価・課題を踏まえた今後の活動方針
文化芸術や歴史文化に関する事業では小中学校との連携を進めた結果、子どもたちの参加は大幅に増えたが、各種公演や展示の参加者の多くはシニア層が占めており、子どもから働き盛り世代にも関心を持って参加してもらえるような内容や実施手法の工夫が必要である。	引き続き魅力あるイベントの開催を通して市民が文化芸術に親しむ機会を増やすとともに、 ふるさとミュージアムでは講座参加者からヒアリングを行い、今後のテーマに反映させる等、新たな切り口で郷土の歴史を学べる講座にも取り組むことで、より幅広い世代に本市の歴史文化を発信し、郷土愛を高める取組を進める。
図書館リニューアル事業については、実施設計が完了した。令和8年度のオープンに向け工事を実施する。	円滑な工事の実施のほか、クロージングイベントの実施、オープニングイベントの企画を行う。また、図書館オリジナルグッズの作成を行い、様々な方法で市民への周知を行う。
市史編さん事業については、市史本編をより多くの市民に読んでいただけるような工夫が必要となる。	図版や平易な文章を用いて読みやすい内容を目指すとともに、写真画像を掲載したアーカイブコンテンツの作成を進める。

< 参考データ >

生涯学習施設の利用者数

(単位：件、人)

	令和6年度		令和5年度	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数
たけまるホール	12,072	219,196	11,010	177,110
やまびこホール	-	-	86	1,517
鹿ノ台ふれあいホール	3,206	41,249	3,387	42,244
生駒市図書会館	3,482	83,804	4,092	89,101
生駒市コミュニティセンター	7,144	136,924	9,704	133,929
南コミュニティセンターせせらぎ	9,129	129,834	8,650	123,164
北コミュニティセンターISTAはばたき	11,298	193,830	12,177	200,867
芸術会館美楽来	6,867	103,142	6,233	103,831
合 計	53,198	907,979	55,339	871,763

点検及び評価に関する意見

(1) 教育委員会の活動状況に対する意見

生駒市が、平成28年(2016)6月に教育行政の根本となる生駒市教育大綱を策定してから9年が経過した。これまで2回の改訂を行い、今回は第3次生駒市教育大綱の最初の点検評価となっている。

教育委員会は、第3次生駒市教育大綱の策定にあたって、児童・生徒へのアンケートや教職員によるワークショップ、社会教育機関の関係者からの意見聴取やパブリックコメントの実施などを行っている。市民の声を集めることで、社会情勢等の変化や新たな教育課題に対応した教育大綱となっていることは、大いに評価できる。

不登校やいじめ、貧困など、子どもたちの抱える困難は多様化・複雑化している中、子どもの教育を受ける権利が保障されるための取り組みが求められている。すべての子どもたちが教育を通じてウェルビーイングを実現するために、多様な学び方や学びの場を選択できる教育環境の整備をこれまでも先進的に進めてきたことを評価するとともに、今後の継続的な取組に期待したい。

定期学校訪問や各施設の視察、学校行事の参観などを通して、学校経営や教育課程の運用など学校教育の実態を確認し、各学校が主体的により充実した教育活動が推進できるよう支援していることは評価できる。今後も、教育活動が計画に基づき適切に運用されるよう、指導管理に務めていただきたい。

成人式、市民体育大会及び市民体育祭、生駒市人権教育推進協議会総会及び研究大会など、市教育委員会主催行事への参加で、市教育行政の理解を深めることができた。また、全国及び県で開催される研修会などへ参加することで、国の動向や他の市町村教育委員会の現状や課題を理解することができた。これらは、個人の能力向上につながるとともに教育委員の資質向上にもつながったことは評価できる。

(2) 教育大綱に基づく施策・事業に対する意見

基本方針 1 主体的に楽しく学ぶ人であるために

1 あらゆる世代の主体的な学びの推進

文科省は令和4年度より、教科指導の専門性向上と学校の働き方改革を目的として、小学校高学年での教科担任制を推進している。高学年の教科担任制で、専門的なより良い授業が行えるようになり、児童に関わる教師が増えたことで、多様な視点で子どもたちを捉え、学習面・生活面ともに良い効果が生じたことは、評価に値する。今後も学習内容を充実させて取り組まれることを期待する。

昨今、読書離れが叫ばれる中、学校司書と司書教諭が連携し、図書館環境の整備や関連イベントの開催を通じて、児童生徒の読書意欲を高めたことは、今後の子どもたちの読書活動の活発化につながり、さらなる取組に期待したい。

部活動支援事業は、専門的な技術指導力を有する人材が不足する中、外部指導者を8校に派遣し、4,176時間実施できたことは、評価できる。今後、部活動の地域移行を本格化させるにあたって、人材確保という難問があるが、是非今後もがんばっていただきたい。

キャリア教育推進事業においては、キャリア教育プランナーとの連携事業が26回実施され、学校ごとの教育課程に即した実践が展開され、学校現場での取組が質量ともに充実していることは、大いに評価できる。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指す授業改善の支援では、授業改善に向けての研修をオンラインで8回、対面で3回実施し、計92名の教職員が参加した。市内外の多様な教職員が継続的に学び合う機会が創出され、授業改善の動機づけと質的向上につながったことは、今後の教育の充実につながることが期待できる。素晴らしい取組であるので、さらに継続的に参加者層を広げていく工夫をお願いしたい。

教育・保育の質の向上については、「不適切保育とは何か」「こどもの権利条約」

についての研修会であったが、すべての職員が受講できていないので、今後すべての職員が受講できるよう努力していただきたい。

保幼小接続推進事業においては、互いの教育を理解し、連携する中で子どもの成長を見守るという観点から、今後の継続的な取組に期待したい。さらに令和7年度作成予定の「架け橋期カリキュラム」も期待している。

「サイエンス探究教室」では、計4回、延べ50人の参加があり、奈良先端大や奈良高専などと連携しながら、市内の中学生を対象に科学に関する「探究型」の講座を開催し、様々な体験を通して、充実した講座を開催したことは評価できる。さらなる内容充実に期待したい。

ビジネス支援事業は、働く世代が興味を持つテーマを中心に9回の講座を開催し、延べ244人の参加があり、講座独自性や新規性に関心を持つ市民も多く、市民の学びの場になったことは、評価できる。

小学校1年生30人程度学級の実施については、本市独自の取組として教育の充実を図るため、全小学校対象に30人程度学級を実施し、きめ細かい指導が行われた。全ての小学校において実施されたことは、評価に値する。今後はさらに他学年においても実施されることを期待している。

2 多様性を認識・尊重し行動できる態度の養成

自殺対策推進事業及びデジタルシティズンシップ教育の推進において、初任者研修や各校で教職員の研修を行い、教職員に必要不可欠な知識、技能等の習得をし、指導力の向上を図ったことは、今後の教育実践に生かされることが期待できる。

いじめ防止等の施策推進は、早期に発見することが大切であり、そのためにも縦横の連絡、連携が必要である。生駒市いじめ問題対策連絡協議会を開催し、資料をもとに議論の機会を設けた。今後も継続的に取り組んでいただきたい。

特別支援教育の充実において、特別支援教育支援員を小学校12校、中学校8校

に、延べ5,018日配置したことは、評価に値する。今後も課題等を整理し、さらに充実させていきたい。

不登校支援推進及び校内サポートルーム事業では、学校に通いづらい児童生徒に安心して過ごせる居場所支援、支援体制の確立を行い、また、教室に入りづらい児童生徒を対象に子どもの居場所を校内に設置し、支援したことは、子どもたちにとって安心して生活できることにつながり、大いに評価したい。環境整備、ガイドラインの作成及び校内サポートルーム支援員の配置も評価したい。

自校式通級指導教室推進事業は、小学校6校、中学校4校に対して通級による指導を学ぶ教員配置が行われた。今後も支援が必要な児童生徒が、自校で通級指導を受けることができるよう、体制の充実を図っていただきたい。

スクールカウンセラー配置の拡充については、市費スクールカウンセラーを中学校で週に1回、小学校で月に2回、1回4時間の活用を行い、より多くの相談への対応が可能になったことは、評価できる。

スクールソーシャルワーカー配置の拡充においても、週に1回教育支援施設に配置し、不登校支援体制の整備における課題、及び今後の方向性についても助言をもとに体制を整備できたことは、評価できる。

多様性を認め合う場の提供は、「インクルーシブアートワークショップ」の開催により展覧会で社会の多様性に共感、理解し合うことをテーマに、2日間で46人の参加があり、また「ちがいを超える展覧会」では5日間で244人の参加があり、今後も継続的な取組を期待したい。

図書館読書バリアフリー事業では、音訳ボランティア養成講座全11回延べ107人参加、耳で楽しむ本の会10回延べ340人参加、対面音訳41回実施、宅配サービス350回実施、1,437冊貸出、知的障がい者のための代読サービス62回、NAIST連携事業留学生と絵本で遊ぼう2回71人参加等、多くの事業が行われたことを評価するとともに、今後の読書推進に期待している。

基本方針２ 学びを通してつながり合える地域であるために

１ 学びをきっかけとした市民同士の交流や新たな活躍の機会づくり

教育行政の方針を保護者・教職員・地域の人々と共有し、共に学び考える場の設定は教育全般の充実につながる大切なポイントである。その意味においても「いこま教育フォーラム」の開催は非常に意義あるものである。

また、幅広い世代へ学ぶ機会の提供と、地域人材活用ということで、「I KOM Aサマーセミナー」を開催し、講座数４５、参加教員数７６、延べ受講者数５２５という中で、アイデアを持ち寄り特別講座やフォトブースの設置など興味を引く学びや体験の場を作り、密度の濃いセミナーとなったことは評価に値する。

人生１００年時代にあって、人生をより充実して過ごせるようにと、「いこま寿大学」の運営と「セカンドライフ充実支援講座」を実施し、講座には累計５７５人の参加があり、高齢者の豊かな人生づくりへの期待があると考ええる。さらに内容の充実と継続的発展を期待する。

学びと活躍推進事業においては、主に働き盛りの世代を対象に「ischool」を開催し、子育て世代のニーズに沿って多様な講座を市民と連携して企画、実施できたことは評価できる。さらに「まちミル」、「ischool for kids」、「初めての人のためのＩＴエンジニア講座」、「学びのポータルサイト」の運営等、多種多様な講座を開催したことも評価できる。

歴史・伝統文化の学びの場の提供と発信においては、「生駒ふるさとミュージアム」の事業及び高山竹林園での茶筌製作実演や、茶道体験学習支援を行った。参加校８校７５５名、総来館者７,５１２名の参加があり、幅広い世代に本市の歴史文化を伝えることができたことは評価に値する。

「音楽のまち生駒」推進事業では、「市民みんなで創る音楽祭」来場者２,８０４人、「第７１回リベラルコンサート」来場者５５０人、「いこすいフェスタ２０２４」来場者８００人、「０才から楽しめるファミリーコンサート」来場者１,８

00人、「第30回ライオンズコンサート」来場者600人といずれの音楽事業も多数の来場者に恵まれ、「音楽のまち生駒」を市内外に発信できたことは、大いに評価できる。

市民との連携や「協創」のもと、まちづくりの拠点となる図書館づくりでは、「本棚のWA」64人参加「未在亭」67人参加、「まちかど図書室」2,244冊貸出、官民共創事業「はっぱクラブ」延べ81人参加等、様々な団体や市民と協働し、読書推進を図りながら、市民のネットワークづくりにつなげたことは、評価できる。

地域スポーツ推進事業としては、「いこまスポーツの日」参加者1,021人、「スポパ+（プラス）」参加者229人、障がい者のためのスポーツ施設開放事業、メダリストやトップアスリートを招聘しスポーツ教室や講演会等多岐にわたっての取組により、市民がスポーツに親しみ、今後の継続的なスポーツ活動に繋がったことは、評価に値し、さらなる充実発展に期待したい。

県の令和8年度から休日における教員の指導による学校部活動を廃止する方針を受けて、新たな地域クラブ活動の在り方に関する方針（案）の検討を行い、また、令和8年4月からの運用に向けて学校体育施設開放事業運用ルールの見直しに向けた検討を行ったことは、今後の地域移行を見据え、「新たな地域クラブ」の推進に繋がることを期待する。

2 市民同士がゆるやかにつながり、学び、支え合える基盤づくり

学校と地域住民等が力を合わせて、子どもたちの成長を育むため「放課後子ども教室」が開かれ、市内10校において参加者延べ6,189人を記録し、子どもの多様な体験・活動が広がったことは、大きな成果である。また、学校運営協議会を各小・中学校に設置し、地域に開かれた学校を推進してきたことは、評価できる。

幼稚園コミュニティ・スクールにおいて、園と保護者、地域が連携して子どものため取組を進めていることは、今後の子どもたちの豊かな育ちに期待できる。また、

寿大学においてクラブ活動として「フードドライブクラブ」を立ち上げ、食品等の提供を進めていくなど、社会貢献につながる活動を継続的に実施していることは、評価に値する。

家庭・学校・地域が連携した家庭教育の支援事業においては、教育支援チーム「たけのこ」を中心に、学校・園などと連携のもと、親子や保護者を対象とした交流事業や、家庭教育に関する情報発信などに取り組めたことは、今後の家庭教育の充実に期待が持てる。

こども読書活動における家庭・地域・学校の連携においては、「トライ！生駒子ども読書会議」の開催や講演会、事例発表、ワークショップ等3回の開催で延べ164人の参加者があり、家庭・地域・学校から様々な人が集まった。子どもの読書活動に関する情報共有を行い、学び合ったことで、今後の課題解決や活動の充実が期待できる。また、ビブリオバトルも全国大会が10周年を迎え、決勝には5人が発表、387人の観戦があり、イベント内容も充実し、市民の読書活動にも寄与したことは、評価に値する。

生駒市のスポーツ活動の推進については、総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業及びスポーツ推進審議会の開催、スポーツ推進委員の運営に集約される。誰もが身近な地域でスポーツ活動が行えるよう各クラブの周知啓発活動支援、生駒市総合型地域スポーツクラブ連携会議の開催等、市内総合型クラブが主体となる仕組みづくりが行われたことは、評価できる。また、スポーツ推進審議会及びスポーツ推進委員会会議の開催により、今後更なる地域スポーツ推進が継続的に発展することに期待している。とりわけスポーツ・レクリエーション活動や社会体育施設の利用において、多大な実績を上げていることは、市民のニーズにあったものと理解し、今後の事業・取組に期待するものである。

基本方針３ 多様な学びを支える環境づくりのために

１ 「楽しい学校園づくり」のための学校園運営体制の整備

教職員が授業や教材研究など教育活動にゆとりをもって取り組むためには、人の補充が必要である。スクールサポートスタッフの全校配置や、部活動の地域移行の取組は評価できる。また講師不足対策として、教員免許や保育資格を有する人材を登録する「いこま教育・保育資格バンク」には、新たに２３０名の登録があった。また、「いこま教師塾」はメディアに取り上げられ、中央教育審議会の部会でも紹介されたアクションプランであり、大いに評価したい。

教職員の資質向上の取組としての教育委員会主導の先進校視察や、受講者全員が資格取得した、「認定教育者資格支援講座」は大きな成果があった。市内教員のICTスキルアップにつながる優れた取組である。

教頭の業務の再定義を核とした学校の業務改善と、教師の働き方改革施策は、困難な課題であると考ええる。教頭を対象とした研修会や外部コンサルタントによる講義・対話ワークショップの実施や、学校連絡サービス「すぐーる」の運用などで一定の効果が認められるが、学校運営の核となる教頭の多忙さは解消されていない。今後も引き続き業務内容を分析、再定義し、取組を進めなければならない。

子育て支援事業は、市立幼稚園における預かり保育時間延長により、目標を大きく上回る延べ２７,６４０人が利用し、大きな成果を上げた。また、特別支援介助講師を４、５歳クラスに２４名加配し、一人ひとりの特性に応じたきめ細かい支援が行われたことも評価したい。

２ こどもたちの新たな学びを創出する環境整備

学校園の施設・設備の改修や改善は、計画的に進めなければならない。建築４０年程度経過した学校や保育所の大規模改修事業は、時代の変化や教育・保育内容の多様化にも柔軟に対応できるよう改修しなければならない。見直しや再調整を慎

重に進めていることは評価できる。生駒南小学校・中学校の整備事業は、地域や保護者向けのワークショップ、説明会、相談会を実施し、きめ細かく市民に事業への理解を求めたことは評価できる。

壱分幼稚園のこども園化は、公私連携幼保連携型認定こども園となる事業である。保護者・地域への説明や協議、公募による事業者選定、既存園舎の解体など多くの課題はあるが、保護者のニーズや保育・教育のさらなる質の向上を図った準備を進めていただきたい。

学校給食センターの施設設備の更新改良、維持保全に努め、学校給食を継続して提供していることを評価するとともに、今後も給食の提供を止めることなく、施設設備の更新・改修を実施し、安心・安全な学校給食の提供を維持していただきたい。

学校教育の中で読書習慣を身に付けさせることは、極めて大切なことである。しかし「読書離れ」が叫ばれて久しい。情報化社会の進展は、自分でものを考えずに断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢を人々にもたらしやすい。これからの時代の学校図書館のあり方を創造し、児童生徒が自主的・自発的に読書や調べ学習をする場となることを課題に、取組を進めていることは評価できる。

一人一台端末導入の今、アクセス場所を問わず、校務と学習のシステムが利用できる教育ネットワーク更新のため、セキュリティを担保しながら校務系ネットワークと学習系ネットワークを統合する取組を進めた。プロポーザル方式により構築及び保守業者を選定し、令和6年度中にネットワークを構築し、令和7年4月の運用体制を整えた。教職員の執務環境の向上と、学校現場が抱える課題の解消につながったことは大いに評価できる。

少子化に歯止めをかける子育て支援は、様々な分野で取り組まれている。保育料の段階的な無償化は国へ要望しているが、令和6年度に市独自で第2子無償化を行い、多子世帯の負担軽減を図ったことは評価できる。今後も、国の制度化に向けての要望を続けていただきたい。待機児童の解消に向け、保育士確保の取組や私立

保育園施設への助成、生駒駅周辺の保育施設の整備を進めている。しかし、令和7年4月1日時点で17名の待機児童がおり、今後も課題解消に向けての取組を継続しなければならない。

老朽化した市立保育所の改修については安全性の確認や、長寿命化や認定こども園としての更新などを配慮し、継続して事業を進めている。壱分幼稚園のこども園化は、保護者・地域への説明・協議、既存園舎の解体工事、民間事業者の選定、新校舎の建設など開園までには時間を要する。保育のさらなる向上を目指し、これらの取組を進めていただきたい。

生駒市学童保育運営協議会が運営する学童施設には、令和6年10月1日現在1,739人が在籍している。増加する学童保育需要に対応するため、環境整備や指導員確保、民間学童保育所の参入などの取組を進め、希望者の全員が入所できたことは大いに評価できる。

3 全ての市民が安心して学び成長できるための環境整備

「生駒市子ども・若者支援ネットワーク」は、困難を抱える子ども・若者が就学や就業など自立した社会生活を営むことができるよう、教育・福祉・就労・子育て更生保護など、各分野が連携して効果的かつ円滑な支援を実施することを目的に、平成29年に設置された。また、平成30年には、ネットワークの拠点として、「生駒市子ども・若者総合相談窓口（ユースネットいこま）」が設置された。多くの不登校・ひきこもりの当事者や家族が相談支援を受け、17人の進路が決定した。相談件数、進路決定者数、新規相談者数は昨年度を上回ったが、困難を抱えている当事者や家族は、まだまだ多く、さらなる取組に期待したい。

図書館リニューアル事業や生涯学習施設整備事業、体育施設整備事業は、利用者が安心・安全・快適に利用できるよう、改修・整備・維持管理が行われている。市民の活動の場、まちづくりの拠点、災害時には避難所となる施設の環境整備を、計

画的に行っていることは評価できる。

市民が興味・関心や親しみを持って、地域に根付いた歴史や伝統文化・芸術に触れることは、より豊かなまちづくりにつながる。『生駒市史』の編さんは生駒市への愛着を深め、将来の生駒市を考えるための事業として意義深い。史料集2冊の発行、記念講演会には123名の参加、4回開催の地域学習イベントには、延べ124名の参加と評価できる取組である。また、生駒ふるさとミュージアムにおいての、文化財や歴史をテーマにした企画展や特別展、各種講座や講演会にも多くの来場・聴講者があった。生涯学習施設で行われた芸術文化活動には23,543人の参加があった。多くの市民が参加する事業を企画・開催したことは高く評価でき、今後の活動にも大いに期待している。

令和7年8月4日

生駒市教育委員会活動点検評価委員

十文字 良 明

生駒市教育委員会活動点検評価委員

藤 林 鉄 彦